建－12	コース名：ハイウェーセミナー	定員 15 名

受入期間：56. 10. 1 ～ 56. 11. 22

関係省庁：建設省道路局

受入機関：

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インド	2	1	サウディアラビア	1	0
インドネシア	0	0	トルコ	1	1
シンガポール	1	1	エジプト	2	1
スリ・ランカ	1	1	ガーナ	1	0
タイ	3	2	ケニア	1	1
中国	1	1	スーダン	1	1
ネパール	1	1	セネガル	1	1
ビルマ	1	1	タンザニア	1	1
フィリピン	0	0			
マレイシア	2	0			
エルサルヴァドル	1	1			
コロンビア	1	1			
ブラジル	3	1			
ボリヴィア	1	1			
イラク	2	1			

受入担当：村上　博

コーディネーター：永田寿治

56年度ハイウェイセミナーに係る研修評価会について

研修第一課第二班

1. 日　　時　　56年11月20日　10:00～12:00
2. 場　　所　　新宿ニューシティホテル
3. 出席者名　　建設省道路局企画課　水本良則
　　研修監理員　永田寿治
　　研修事業部研修第一課　村上博
　　研修員　19名
4. 研修員の意見要旨

(1) ブリーフィング，General Orientationについて

非常に役立った。

（改善点の要望無し）

(2) 研修全般について

o道路会議出席により現在の日本の状況が把握できた。

oカントリーレポートは特に他国の事情を認識でき参考になったが1人あたりの発表時間が15分程度であり、少なくとも30分以上は必要である。

o道路法については資料だけあればよく講義は必要無い。

o次回から建設機械工場見学をプログラムに入れるよう希望する。

o下部講造の現場及び砂利道を舗装中の現場を見学したかった。

o講師に英語力のある者を希望する。

o見学は重複の無いよう合理的に実施すべきである。

o共通の問題点をもっと話し合いたい。

担当のコメント

1. 本年度はたまたま道路会議がありそれに参加せしめる事ができ生きた研修ができた事は幸運であった。
2. カントリーレポートは、道路会議の席上実施した為時間が限られてしまい、しかも19名であった為1人当たりの発表時間が短縮されてしまった。

次年度より少なくとも2日以上は必要であろう。また、本コースもセミナーと銘打っており、討議時間が少ない現在のコース実施に不満も出ており、カントリーレポート時または、講義時に討議する時間を設定するよう検討したい。

3. 講義は、現在のところ同一講師が半日づつとなっているが（2～3の例外はあるが）、研修の効果を考えた場合（集中度等）、一講師一日とし、講義科目をしぼり、討論時間を設定した方が良いのではないかと思料する。
4. 本年度は19名を受け入れ（定員15名）、研修監理員は2名要請したにもかかわらず1名しか許可されなかった（研修旅行時のみ2名）。

監理事務をより効果的に遂行する為次年度より2名の研修監理員を希望する。

5. 現場見学については、合理的な計画により実施すべきであるが、時期的に当方で希望する工程の見学が

可能か否かは運に頼らざるを得ない面があり苦労するところである。

今後の改前の可能性としては現在、建設省、道路公団、首都高、本四公団関係に限られている現場を県関係にまで拡げられるかであり、これにより、参加国の工事規模により近いものを見せる事も可能であろう。

また次年度から建設機械工場、その他道路建設関連工場の見学も考慮に入れたい。

以　上

研修監理員の報告要旨

① エバリュエーション・ミーティングに於ける意見は、研修期間、研修スケジュール、講義時間、研修時期ともに申し分ないという大方の研修員の意見でしたので次回もこのままで良いと思います。

イ、研　修　面

② 定例セミナーということもあって受入先の対応は概してあざやかだったと思います。（もっとも近畿地方に行った時バスの手配の連絡ミスで1時間程遅れる結果になったこともありましたが。）

③ 地方事務所で配布されるパンフレット類はメモ書きでも良いから英訳をつけてもらいたいと思います。

④ 第14回日本道路会議に出席する機会を得られましたことは研修員にとって大変幸運だったし有意義だったと思います。パーティにお招き戴き、バスツアーを組んで戴きました日本道路協会に対し深甚なる謝意を表したいと思います。

⑤ 講義についてですが限られた時間内に全ての事柄を説明することは不可能ですから事前に研修員の意見を聞いて関心の深い数点について説明された方がベターだと思います。

又、出来るだけ視聴覚教材を使った方が解り易いし喜ばれるようです。

⑥ 一般的ですが、どのコースにも、時間にルーズな研修員がいますのでＪＩＣＡとしてもこのような研修員に対する決定的な対応策を検討すべきだと思います。（コーディネーターの努力にも限界があると思いますので。）

⑦ 政府広報活動に使用する為外務省の委託によりセネガルの研修員を中心にこのセミナーの研修風景の記録映画を撮られましたので付記しておきたいと思います。

ロ、生　活　面

① １９名という大集団だったにも拘らずインド及びビルマの年長者を中心にまとまり、協力的でうまく行ったと思います。

② 一般的提案事項ですが研修員と（含ＪＩＣＡ関係者）一般市民との「意見交流の場」を設けたらいかがでしょうか？　オリエンテーション（G.O.）では得られない現実を語り合うことは研修員にとっても有益だし国際的な物の見方を身に付ける上で日本人にとっても貴重な時間が得られると思います。

'81 ハイウェイセミナースケジュール

	午前（10：00～12：00）		午後（13：30～15：30）	
	講義名	講師名（所属及び役職名）	講義名	講師名（所属及び役職名）
10-1 木	来日			
2 金				
3 土				
④日				
5 月				
6 火				
7 水	Orientation	（JICA）		
8 木				
9 金				
⑩土	free			
⑪日				
12 月	日本の道路	溝口　忠 （道路局企画課補佐）	道路に係る法令等	熊沢　透 （道路局路政課補佐）
13 火	道路計画	霜島稜一 （道路局道路経済調査室補佐）	都市内道路計画	松原重昭 （都市局都市再開発課補佐）
14 水	都市間高速道路	倉沢真也 （道路高速団連課補佐）	道路交通経済	重永正敏 （道路公団総務課係長）
15 木	北関東方面見学	（関東地建） 外かんモデル道路、 川口インターチェンジ 岩舟・小山バイパス 月夜野バイパス		
16 金				
17 土	free			
⑱日				
19 月	幾何構造基準	溝口　忠 （道路局企画課補佐）	都市内高速道路	波羅芳武 （首都公団第二計画課班長）
20 火	第14回日本道路会議			
21 水				
22 木				
23 金	道路交通工学	越　正毅 （東大生産技研教授）	有料道路制度	泉堅二郎 （道路局有料道路課補佐）
24 土	free			
㉕日				
26 月	東京 → 筑波		筑波学園都市見学	（JICA，研究交流センター）
27 火	土木研究所見学	（土研企画課）		

	午前（10：00～12：00）		午後（13：30～15：30）	
	講義名	講師名（所属及び役職名）	講義名	講師名（所属及び役職名）
28 水	道路土工	久保勝行 （土研土質研究室長）	建設機械	太田宏 （土研機械研究室主任研究員）
29 木	新交通システム	神崎紘郎 （土研新交通研究室長）	橋梁下部工	塩井幸武 （土研基礎研究室長）
30 金	アスファルト舗装	飯島尚 （土研舗装研究室長）	コンクリート舗装	飯島尚 （土研舗装研究室長）
31 土	筑波→東京			
11-①日	free			
2 月	首都高速道路公団	（首都公団、工務企画課）		
③火				
4 水 5 木	日本道路公団	（道路公団、企画課）土浦、日立		
6 金	橋梁上部工	藤原稔 （道路局国道第二課補佐）	コンクリート構造物	田崎忠行 （官房技術調査室技術調査官）
7 土 ⑧日	free			
9 月 10 火 11 水 12 木 13 金 14 土	研修旅行	23号知立バイパス （中部地建）豊田自動車153号沿線現場 中央道管理事務所 恵那山トンネル2期線工事現場 1号沿線現場 （近畿地建）大鳴門橋		
⑮日				
16 月	道路の維持管理	船越洋一 （道路局国道第一課補佐）	沿道環境問題	小野薫 （道路局道路環境対策室補佐）
17 火	国際融資と事業計画	竹内義人 （海外経済協力基金第一課課長代理）	日本道路交通情報センター見学	
18 水	横浜方面見学	（関東地建） 東寺尾共同溝、尾張屋橋		
19 木	レポート作成	（JICA）		
20 金	Evaluation			閉講式 Party
21 土	帰国準備			
㉒日	帰国			

建－13	コース名： 総合都市交通施設計画セミナー	定員 10名

受入期間： 56. 10. 15 ～ 56. 12. 12

関係省庁： 建設省都市局

受入機関： 都市計画協会（経理委託）

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インドネシア	5	1			
シンガポール	1	1			
タイ	1	1			
大韓民国	1	1			
中国	1	1			
フィリピン	2	1			
マレイシア	1	1			
コロンビア	0	0			
パナマ	1	1			
ブラジル	4	2			
メキシコ	8	1			
イラン	0	0			
エジプト	2	1			
ケニア	0	0			

受入担当： 北林春美

コーディネーター： 須藤達也

総合都市交通施設計画セミナー
エバリュエーションミーティング

12月10日　13：00 － 15：00

新宿ニューシティホテル

出席者：　建　設　省　　小　川　室　長

　　森　　技　官

　　J　I　C　A　　北　林　（担　当）

　　須　藤　（監理員）

・本セミナー参加の目的

Other Experience（インドネシア、マレイシア）

先進国の事情を自国に紹介する（フィリピン）

バスシステム（パナマ）

交通計画（Ayrton）

交通施設（エジプト、パナシロ、メキシコ）

地下鉄 Highway（シンガポール）

Highway，インフォメーションシステム・O-D調査（中国）

・General Information

応募前にインフォメーションを読んだ（　11 人）

　　〃　　読まない（メキシコ）

十分な情報を得られた　　（9人）

もっと内容の要点が知りたい　　（マレイシア）

グループを知りたい　　（パナシロ）

・講義時間等

1単位2時間は短い　　（5人）

　　〃　　ちょうどよい（5人）

質疑の為の時間が少い

研修旅行の時間が少い

・conputer control system は似たり寄ったりなのでいくつも見る必要ははない（インドネシア）

それぞれに異なる役割のものなので、そうとばかりも言えないのでないか（フィリピン）

（大方の意見として2～3ケ所の見学が適当とのことであった）

・Police Agency の見学は良かった（シンガポール）

・講師について（大学教授の評価が高かった）

実務についているMOCの人から話をききたい（マレイシア）

今の割合でだいたい良いと思う（ブラジル Ayrton）Teaching Abilityが問題で、大学かMOCかは本質的な問題ではない。概して大学教授の方がそれに優れていたということだ。（インドネシア）

講師が2時間ごとにくるくるかわるので、くり返しが多く、講師間の連絡もまったくないという感じた。（メキシコ）

MOTからも講師を迎えて欲しい（フィリピン　他5）

・講義のわかりやすさ

半分以上日本語だった。もっと英語でやって欲しい（シンガポール）

広瀬氏は日本語だがとてもわかりやすかった。

住宅公団の早川氏と稲田氏の場合も必要に応じ、英語・内容のわかる人がfollowしてくれ、良くわかった。（インドネシア）

太田氏、矢島氏、小沢氏、溝口氏の講義が大変興味深かった。（メキシコ　他）

小沢氏の講義はもっとふやして欲しい。（マレイシア）

・テキスト等

（ほぼ全員が十分であったとしている）

黄色のテキストは使用度が少なく、くり返しも多かった。（ブラジル、ハナシロ、メキシコ）

国に帰ってから参考書として使う（マレイシア、Ayrton）

パンフレットなどは日本語が多かった（マレイシア）

Audio visual 教材をもっと使ったらしい（　〃　）

多摩ニュータウンではフィルムによる説明があったが、講義よりわかりやすかった。

・カントリーレポート発表

facilities が十分でなかった（シンガポール）

General Informationにはテーマがいくつも書いてあったのに、発表は1つしかできなかった。1人あたりの割当時間など、G.I.の記載をもっと親切なものにかえるべきだ（フィリピン）

・MOCレポート発表

時間はちょうどよかった。

・セミナーの長さ

長すぎた　　（インドネシア）

短かすぎた　　（中　国）

ちょうど良い

・グループの人数

ちょうど良い

・プログラムの配置について

該当する講義と見学の組合せについては、見学を前にした方が講義で色々質問できる。（メキシコ）

セミナーの始めと終わりの方に見学旅行をやってまん中に講義という配置にしてはどうか（フィリピン）

・加えて欲しいもの

東京のバスシステム、中小都市のバスシステム（Ayrton）

さしあたっては地下鉄よりバスの方が役立つ（シンガポール）

Zone bus Systemの講義をもっとふやして（韓国）

地下鉄工事現場がみたい（エジプト）

日本の成功譚ばかりでなく、弱点、失敗の経験も教えて欲しい。（インドネシア）

・一番役立つ Subject

バス関係（パナマ）

O-D Survey, 予測手法、Parking lot, ride & ride, safety system (Ayrton)

地下鉄、1方通行（エジプト）

地下鉄、高速道路O-D survey（中国）

応用はすぐにはできない（フィリピン）

すべて役立つがどのように単純化するかが問題だ（パナシロ）

意志決定が他の省庁に委ねられているため、困難が多い。（マレイシア）

・その他

ニューシィティーホテルでの宿泊、講義は良かった。

レクリエーションがなかった。

『FINAL REPORT の要点』

1981

総合都市交通計画施設セミナー

コーディネーター

須藤達也

FINAL REPORTの要点

講義内容に重点を置いて研修員の書いたFINAL REPORTをまとめてみたい。講義の評価は研修員も、コースの最後にまとめて思い出しながらランクづけをしているので、必ずしも全面的に信じるわけにはいかない。評価AとBを適当に散らしてチェックしている場合が多いため、特に人気が悪かった講義（評価C）についてまずまとめてみたい。

評価がCであったのは

アミールさん（マレーシア）

o legislative system of city planning

o 〃 〃 〃 road planning

o Program for Traffic Pivots

o 〃 〃 Parking Lots

o New Town and Planning

ロランドさん（フィリピン）

o Program for Traffic Pivots

ランサンさん（タイ）

o Program for Traffic Pivots

o Analysis of economic effect

リーさん（韓国）

o New Transportation System

以上みてみると、特にProgram for Traffic Pivotsの評価が低いことがわかる。

ただ、評価を下す時、研修員が各々色々な判断基準を用いていることを忘れてはならない。時にそれは講義内容ではなく、それを講義する講師の講義テクニックに対することだったりする。あるいは、もっと私的に、自分の関心をひかなかったという場合もあろう。Traffic Pivotsに関して、ロランドさんの意見を借りると、あまりに内容が瑣末であるという不満であるようだ。

それでは次に各研修員のレポートの中で重要だと思われる点を箇条書きにして示したい。

デッキー　リー（シンガポール）

コースが始まる前に、多少日本語を勉強するプログラムを設けてほしい。日本の滞在がそれにより、もっと楽しめるから、と理由である。

英語の講義を増やして欲しい。

京阪神首都圏の交通システムが参考になった。計画人口増がシンガポールの情況と似ているからである。

アントニオ（メキシコ）

もっとディスカッションの時間が欲しかった。研修員と講師との間のコミュニケーションが少なかった。

日本語の資料の中で重要と思われるものは翻訳してほしい。

アミール（マレーシア）

ＴＩＣのオリエンテーションがよかった、

Programs for Traffic PivotsとParking Lotsはテキストの改正が必要。

カントリー・レポートでは日本人の専門家が司会をして都市交通問題の解決法をさぐるような方向性をもってほしかった。

講義のくり返しは避けたい。

新交通システムが非常に参考になった。

講義中、講師とコーディネーター以外にも何人かの日本人の参加があれば、そのような人々との対話から日本社会について色々な情報を得られると思った。

キャンベル（パナマ）

講義の時間が短かすぎる

質疑応答の時間がもっとほしかった。

パーティの時間が短かすぎる。

ロランド（フィリピン）

講義内容の重複が多い

このコースは総合都市交通施設と「総合」と銘打っているので運輸省にも加わって欲しい。

講師と研修員とのすばやい質疑応答がなかった。

ランサン（タイ）

講義の６０％以上が日本語で行なわれたことは憤慨である。

日本語の資料は英語に直してほしい。

リ　ー　（韓国）

講義と研修旅行の組み合わせがよかった。

ミ　ン　（中国）

研修旅行と一体になった講義がとくによかった。

２か月という研修期間は短かすぎる、３か月が最低線、できれば６か月くらいが望ましい。

ダーマワン（インドネシア）

コンピューターシステムの交通管制センターの見学に１つにして、他に交通機関（バス、タクシー、鉄道等）を生産している工場を見学したかった。

大学の教授の講義がよかった。しかし各省庁から来られた講師の中では、準備不足の人が目立った。

工学的な内容の講義だけでなく、財政、経営面での講義が欲しかった。都市交通に関するビジネスの実際を知りたかった。

日本で多くのことを学んだがジャカルタで適用可能なのは鉄道システム位だと思う。

英語能力に欠ける研修員がいた。

ハナシロ（ブラジル）

黄色のテキストは内容の重複をさけ、もっとコンパクトにした方がよい。

総合都市計画の実施段階の難しさに関する講義、及びＯＤ調査等の調査方法が非常に役に立った。ＯＤ調査は自国でも適用できると思う。

アユートン（ブラジル）

日本のバス・ターミナル、バス専用道路ライドアンドライドシステムを自分の国でも適用したいと思う。バスに関する情報が非常に役立った。

モロード（エジプト）

大学教授の講義をもっと増やしてほしい。

多摩ニュータウンのような、計画から実施段階に入った例をもっとみたかった。

見学、研修旅行は、スケジュール全体に散らして欲しい。

以上の如くである。evaluation meetingで上記の点について、全体で話しあい、グループとしての意見も出たと思う。このような点に留意して、今後大いに改正していきたいと思う。

担　当　　所　見　　研１北林

1. 研修員講成

・１１ケ国１２名（ブラジルのみ２名）の人数は、このプログラムとしては最大限の数で、やはり１０名が妥当な数と思われる。

人数の増加は、カントリーレポート発表

討論といった相互の意見交換・情報交換を困難にし、「セミナー」としての運営をますますむずかしくする。現行のプログラムでも、この「セミナー」的性格の欠如はたびたび研修員からも指摘された。

・割当国は、それぞれ、自国に交通問題をかかえる大都市を有しており、その解決に強い関心を持っているという点、また政府ベースの経済・技術協力の中の他の事業（専門家派遣・開調　等）との関連のある国々であるという点から妥当なものであったと思われる。

○講師によっては準備してこられたテキストを読むだけで終わった方があり、そういう講義に不満が多く出た。

英語にによる講義の割合がセミナータイプとしては低い方であるということも一因と思われる。

見学・研修旅行は頻度、内容とも妥当と思われる。ただ、事前のインフォメーションの不足の為、見るポイントをつかんでいない場合や、都内の半日日程が強行軍すぎて、十分に見られないという場合があった。

見学の前に、あらかじめ、行先についての説明と、見学のポイントを知らしめておけば、より効果があったのではないか。できれば半日の見学のいくつかは、全日に延ばして欲しい。特に後半、気候が厳しくなってからは、夕方にかかる時間は、何も見られず戸外を避けてスケジュールカットということもあった。

研修旅行を前半に置くことは、研修員どうしの親ぼくを深め、友好的雰囲気を作り出すのに役立ち、日本の各交通施設等を見ることにより、講義をきくさいに、より具体的イメージを持つことができるという利点があった反面、帰京後、あまり緊張感がなくなり、リラックスしすぎるという面もあった。

3. テキスト

本年度使用したテキストは、１９７９年（第１回）に作成したテキストを、Outline（前述）に沿って再構成し、８０年に作成した数種の文を追加して８１年春に作成したものである。（再構成には前担当者である岩崎氏にご協力戴いた）

しかし、今年度の使用頻度は大変低く、各講師の方が自分で準備されたパンフレット類を使われることが多かった。

来年度の分としては、約１５冊の残部があるので、研修員の分のみとしては十分であるが、今後の増刷は、現在の使用状況・及び内容（参考書として）からいっても、そのままのボリュームでは無理。

テキスト使用案

１）新規改訂

５７年度の計画に基いてテキストを改訂する。その際の基本的了解事項としては、

１）５８年以降も使用することができる。

（または多少のさしかえのみで使用できる）

２）セミナー開始前に作成できる。

大体の構想はＪＩＣＡにて本セミナーの予算を計画、認可されるまでに立てなければならない。

２）増刷

現行のテキストをほぼそのまま増刷する。

この場合、使用度からみて、テキストというより参考書という性格のものになる。

また、内容の重複等も多い為、今一度中身を整理し、より handy な形にする必要有また、講義の際は、今年度同様、パンフレット、簡単なレジュメ程度のものを使用する。

・研修員の所属先・職位、専門分野・レベルについては、各国の事情の差もあって、経企・交通公団、警察・都市計画公社運輸・公共事業等バラバラの組織から派遣され、専門分野・関心も様々であったが、研修参加に際しての意欲；知的・レベルはかなり高かった。

まったく専門外の参加者や大半の講義に関心を示さない参加者は本年度の場合、皆無であった。

昨年度と比べて質問の多さ、その内容の高さからみても、レベルは高かった。特に、講義の内容を常に自分の国の実情にひきつけて理解し、比較しようとする態度が数人の研修員から示されたことは彼らの積極性を示すものと思われる。

ある一定の技術の取得を目的としたトレーニングコースと異なり、このような講義・討論中心のプログラムでは研修員の質（Motivation・level・Personality etc.）に、研修の成否が大きくかかってくるものであるが、その点では、本年度の研修員は優秀なものが多かった。

但し、研修員が優秀であればある程日本側に対する目が批判的なものになること、日本側の優れたリーダーシップを要求されることがある。特に彼らは一方的な講義を不満とし、講師その他の日本人と、討論、質疑を多く望む傾向にあった。

本年度の場合、中国研修員の英語能力に難があり、質疑中流れがとどこおることもあったが、彼の場合熱心な態度で、感情的な摩擦を起こさずにすんだ。英語能力はG.I.にうたってあるが、現実には人選の主導権は相手国の担当機関に握られていることが多く、日本の機関が直接英語能力をテストするなどは残念ながら制度化されていない。

2. プログラム

・研修期間は現行のままで妥当と思われる。セミナータイプとして、相当のレベルの者を集める為には長すぎることは不利であり、実際上もあまり長くすると、後半に研修員の気のゆるみ、健康上の問題等出やすい。

また、期間を短縮する為にはかなりのカリキュラム変更（削除）が必要と考えられる。

むしろ、現行の期間の中で、今より多少ゆとりを持ったプログラム（討論・レポート発表、都内見学等）にすべきでないか。

・所謂セミナーとして座学が中心になることは避けられないが、その中で特に問題点と思われた点は、

1）コース全体の組立・つながりを眺め、研修員にアドヴァイスを与えることのできるコースリーダー的存在の欠如

各回ごとに講師が変わり、その講師間の連絡も十分でない為、各講義が有機的に関係づけられず、重複が多くなっている。

セミナーの構成は、プログラムオリエンテーションの際配布されたOutlineに示してはあるが、研修員はこれを十分と思っていない、または、1回きりでなく、度々中途での方向づけを必要としているとの意見を述べていた。この点是非強化していただきたい。

2）カントリーレポート発表時や講義中の質疑応答の不足

○カントリーレポートは、時間不足で、最後の人が充分に発表できなかった。

建設省から多数の指導官が来られ、皆張切って発表したが、討論にあまり活発でなく、発表テーマ、議事の進め方に一考を要する。

昭和56年度「総合都市交通施設計画研修」日程表

月日	曜日	講義　見学	講師 氏名	講師 所属
10.15	木	来　日		
16	金			
17	土			
18	(日)			
19	月			
20	火	10/19～10/23A.M.		
21	水	J. I. C. Aオリエンテーション		
22	木			
23	金	A.M. P.M. 研修ガイダンス	小川裕章	都市交通調査室長
24	土			
25	(日)			
26	月	日本の都市の歴史	宮沢美智雄	(財)社会開発総合研究所　所長
		日本の都市と都市交通	新谷祥二	東京大学工学部都市工学科教授
27	火	都市交通計画の考え方	村橋正武	都市局都市交通調査室　課長補佐
		法体系　（都市計画法）	桜田光雄	〃　都市計画課長補佐
28	水	〃　（道路法）	平川勇夫	道路局道路交通管理課長補佐
17:00～ 関東地建		交通計画と国土計画、地域計画、都市計画との開通	秋口守国	国土庁大都市圏整備局計画課課長補佐
29	木	都市交通調査体系	小沢一郎	関東地建都市調査課長
		〃		
30	金	Country Report 発表会	横山浩	建築研究所都市計画研究室長
		〃	宮川朝一	土木研究所システム課主任研究員
31	土			
11. 1	(日)			
2	月	都市交通の将来予測及び計画手法	浅野光行	建築研究所都市施設研究室長
		〃	〃	〃
3	(火)			
4	水	Country Report 発表会	小浪博英	都市局区画整理課長補佐
		〃	長沢利夫	計画局地域計画室長計画
5	木	総合都市交通計画の考え方（PT）	佐々木綱	京都大学工学部交通土木工学科教授
15:30～ フライト打合せ		プロジェクト評価手法	依田和夫	都市局区画整理課長
6	金	建設省　表敬訪問		
		見学　関東地建（東京都市圏の交通計画）　13:30-17:00	小沢一郎	関東地建（小沢都市調査課長） 湾岸道路他見学
7	土			
8	(日)			

月 日	曜日	講義　見学	講師 氏名	講師 所属
11. 9	月	見学　関西方面		
10	火	↑	森	
11	水			
12	木		竹	
13	金	↓	内	
14	土			
15	㊐			
16	月	都市の土地利用計画	沖村恒雄	都市局都市計画課課長補佐
		都市交通計画の考え方（物流）	吉川和広	京都大学工学部土木工学科教授
17	火	交通安全施設計画	溝口　忠	道路局企画課課長補佐
		都市計画における合意形成システム	荒木英昭	都市局都市計画課専門官
18	水	公共輸送機関計画（鉄　道）	太田匡俊	帝都高速度交通営団総務部調査役
		見学　営団地下鉄	〃	
19	木	公共輸送機関計画（都市モノレール、新交通システム）	秋田昇一	都市局　街路課　課長補佐
		道路計画	矢島　隆	都市局　街路課
20	金	交通結節点計画	福井　照	〃　〃　係長
		駐車場計画	松原重昭	〃　再開発課　課長補佐
21	土			
22	㊐			
23	㊊			
24	火	都市高速道路	武田宏夫	首都高速道路公団第1建設部調査課長補佐
		見学　首都高速道路		
25	水	都市交通機関と特性	太田勝敏	東京大学工学部都市工学科助教授
		交通事業の経営	塩沢　誠	東京都交通局自動車部主幹
26	木	見学　筑波学園都市	ふなびき　都市計画課	10：33～11：30
27	金	↕		
28	土			急行ときわ8　15：46～16：40
29	㊐			
30	月	交通管理、規制の基本的考え方	時崎賢二	警察庁交通局交通規制課課長補佐
		見学　交通管制センター		
12. 1	火	演習Ⅰ（ニュータウンと交通計画）	友倉幸二	住宅都市整備公団都市開発事業第1部事業計画課長
		〃	稲田幸一郎	住宅都市整備公団南多摩局事業部事業計画第二課長
2	水	見学　新宿副都心		東京都
		見学　多摩ニュータウン		宅地開発公団

月日	曜日	講義　見学	講師	
			氏名	所属
12. 3	木	公共輸送機関計画（基本的考え方） 見学　高島平	岩本康男	大阪市総合計画局都市計画部都市計画係長
4	金	都市交通施設整備の経済効果分析 演習Ⅱ（ニュータウンと交通計画）	森口　賢 支倉幸二 稲田幸一郎	日本開発銀行都市開発部副長
5	土			
6	㊐			
7	月	ゾーンシステム 環境問題と対策	広瀬盛行 篠田伸生	明星大学工学部土木工学科教授 〃　〃　課長補佐
8	火	レポート作成		
9	水	研修レポート発表会 〃	椎名　彪 林　考二郎	都市局　街路課　専門官 大臣官房　政策課長補佐
10	木	J. I. C. Aエバリュエーション J. I. C. A 閉講式		小川室長　他出席
11	金	帰国準備		
12	土	帰　国		

建一14	コース名： 住宅建設	定員 15名

受入期間： 56. 10. 29 ～ 56. 12. 21

関係省庁： 建設省住宅局

受入機関：

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インドネシア	3	2	シリア	2	1
シンガポール	1	1	アルジェリア	0	0
スリランカ	1	1	エジプト	0	0
タイ	2	1	ガーナ	1	1
大韓民国	1	1	ケニア	1	1
中国	1	1	ヴェネズエラ	1	0
バングラデシュ	2	1			
ビルマ	1	1			
フィリピン	4	1			
マレイシア	2	1			
エルサルヴァドル	1	1			
チリ	0	0			
ブラジル	1	1			
イラク	1	1			
サウディアラビア	1	1			

受入担当： 外川 徹

コーディネーター： 岡部昭子

昭和５６年度住宅建設コース研修評価会議事録

日　時：昭和５６年１２月１８日（金）　13:30 ～ 15:30

場　所：ＴＩＣ　セミナーＦ

出席者：国際住政策研究所々長（本コースのコースリーダー）

金　子　勇次郎

建設省住宅局住宅政策課

係　長　加　藤　　茂

担当官　渡　部　久仁雄

国際協協力事業団　研修事業部研修第一課

班　長　大久保　宏　明

担　当　外　川　　徹

国際建設技術協会　研究員

原　　茂

研究監理員　岡　部　昭　子

〃　植　田　百早合

1. 本コースのプログラムについて、研修期間、講義、見学に割当てられた時間について

Mr. Ahmed（バングラ）　学ぶ事が多いし３ケ月は必要、又学んだ事を確認する意味で週一回のテストを設けてもよい。

Miss Hawry（イラク）　試験制度不要

Mrs.Amelia（フィリピン）　試験でなくともAssesment（評価）なりやる事には賛成。

Miss Ngure（ケニア）　現在のＡＭ．ＰＭ２時間ずつの講義は日に７時間位にふやすべき。

Mr. Gomez（エルサル）　研修参加者それぞれ母国に本来の職務を持ちこれ以上の期間延長は賛成しかねる。そのためにも１日の講義時間を延ばすことには賛成。

Miss Hawry　２時間のランチタイムは長すぎる。

Miss Sampaio（ブラジル）　本コースはもっとセミナーの性格を持つべきその意味でもカントリーレポート発表にもっと時間を割当てるべき。

１ケ国２０分は短りない。

Mr. Ayoub（マレイシア）　本コース自体とてもReasonable。１日の講義時間延長には賛成。日本が住宅問題で何を（What）取り組んだかよりもどう（How）対処したかの方が本コース参加者には興味ある事項。各国の事情が異り技術のApplyはなかなか難しいて基本事項、プロブレムサーベィをもっと学びたい。

Miss Haway 見学の時間を増やしてほしい。特に工事中のプロジェクト、プレハブ工場　他。

Mr. Gomez　我々エコノミスト、行政官も参加しており既存の時間配分で充分。

Miss Hgure　参加国の実情に合わせて、古い町、スラムも見学に入れて欲しい。

Mr. Singn　（シンガポール）　期間が短い。現場に従事している技術者（公団等）ともっと話し合いの機会を持ちたい。

Mr. Affram(ガーナ)　重要なのは本研修より参加国が何を得るかという事。期間は3ケ月必要。Attachment System（関係機関から講師を呼ぶよりも関係機関のスタッフにはりついて実情を学ぶ）の導入はどうか。

Mr. Ayoub　そのシステム導入には反対。それには個別コースが対応し得る。いろんな分野から参加者が来ているが、テーマをどう絞るかが問題。もっと住宅供給、維持、居住者について実情を学びたい。

Mr. Li(中国)　1日の講義時間を増やして、期間延長希望。住宅の室内に入る機会を増やしてほしい（特に入居済みの）。

Ⅱ. 講義について、今後付け加える科目はあるか。

Mr. Kim（韓国）我国は住宅不足で悩んでいるがこれからプレハブ住宅、住宅建材、コストについてもっと学びたい。

Mr. Ahmed　途上国の事情をふまえ低価格ハウスにもふれてほしい。

Mr. Affram　伝統的な住宅からどう応用、発展させて行くか学びたい。

Mr. Soetanto（インドネシア）　我国の実情からかけはなれている理由から大阪南港ポートタウンは不要。

Miss Hawry　維持管理についてもっと学びたい。

Mr. Li　他多数　大阪南港を削るのは反対。

Ⅲ. カントリーレポートについて

Miss Sampaio　1人20分は少い（他多数これには賛同）

Miss Ngure　発表後討論の時間を持ちたい。

Mr. Ayoub　コース開始時に持つ必要はない

Mr. Gomez　開始時に1回発表会持ちコース終了時に本研究の経験をふまえコメントをつけた別の発表会を設けたら。

Miss Sampaio　他多数　試験制度よりそのようなやり方のほうが良い。

Miss Ngure　テーマに改善の余地あり。

Mr. Li　国の実情が異るし異るテーマを各国に割りふったら

Ⅳ テキスト資料について

全員　満足のいくものである。

Ⅴ 見学について

Mr. Damanhouri　もっとふやして、しかし1日2回の見学は避けて欲しい。

Mr. Ayoub　他多数　1ケ所をじっくり見たい。

Mr. Affram　産業（工場）見学がなかったが、…

金子リーダー　昨年実施して不評であった。昨年はそれとは別に地方（田舎）の住宅事情の視察をした。

Miss Hawry 排水処理施設の見学がしたかった。

VI 研修旅行について

Mr. Roumani 名古屋の移動にタクシーを利用したがバスをフルに使いたい。

全員 名古屋のUNCRDの講義は良かった。

Miss Sampaio 研修旅行をコースの最後にもってきたら

他 コースの半ば

人間関係の意味からコースの始めに

Mr. Affram（講義に関連した事に戻るが）

講師の中にテキストを読みあげるだけの人がいた。専門の通訳がいたらしい。

Miss Sampaio 研修監理員は（その通訳業務についても）高く評価出来る。

Mr. Kim 資料を予め渡して欲しい。

Mr. Bancha（タイ） 監理員を通じた講義は時間をくう。

Mr. Roumani もっと経験のある講師を紹いたら。

VII 宿泊、研修施設としてTICをどう思うか。

Miss Sampaio うるさい、浴室がない。

Miss Hawry TICは清潔

Miss Ngure 夕方週末もっとEnjoyする施設、機会があるといい

Mr. Singn もっと管理すべき、（うるさい）

他多くの研修員 しかし快適である。

Mr. Gomez 図書館を改善して欲しい

外 川 各国の資料の寄贈は歓迎する。

多くの希望 それはいいとしてもロビーの各国の民芸品の展示はもっときれいに。

Mr. Gomez スポーツ施設をもっと完備して

VIII そ の 他……

Mr Roumani 講師にもっと経験者尚かつ英語の出来る人を…

金子リーダー 我方としてもベストを尽くしているが英語の出来る講師を探すのに大変苦労する。

Mr. Li 講師の変更があったがこれは避けるべき

Mr. Singn 全体評価をすれば我々は関係者に感謝の言葉以外にない。

Mr. Affram 本会議は評価会ということコース改善の意味でもある程度批評の性格を持つがもし卒直な感想という事であれば関係者に謝意を表する以外にない。

大久保 いろいろ要望をうかがったが、ここで答えられる限りでは、予算の問題もあり本コースの期間延長は困難である。又1日の講義時間を増やすという要望については検討可能であるが私個人の海外経験からしても時間的にゆったりしたプログラムも肝要である。又研修旅行の延長についても予算の制約を受け現状では難しい、これらの本会で出された要望については別途反省会を持ち関係者で話し合いたい。TICの設備について、只今第2TICが建設予定であり将来的に改善されるであろう。

（散 会）

第5回住宅建設研修プログラム

月日	曜	テーマ (午前 10:00−12:00) (午後 14:00−16:00)	講師	
10.29	木			
～		JICA研修		
11. 6	金			
7	土	休		
8	日			
9	月	開講式		
		日本の住宅事情・日本人の住生活	国際住政策研究所	金子勇次郎
10	火	AM バングラデシュ、ブラジル、ビルマ	〃	〃
		PM 中国、エルサルバドル、ガーナ インドネシア	〃	〃
11	水	カントリーレポート発表会 (20分発表、15分Q&A)	〃	〃
		AM イラク、ケニア、韓国	〃	〃
		PM マレーシア、フィリピン、サウジアラビア、シンガポール	〃	〃
12	木	AM スリランカ、シリア、タイ	〃	〃
		PM Discussion	〃	〃
13	金	建築行政の体系	(財)住宅・木材技術センター	水越義幸
		住宅政策の体系	建設省 住宅局	荒巻健二
14	土	休		
15	日			
16	月	公営住宅のしくみ	建設省 住宅局	青木貫裕
		住宅・都市整備公団のしくみ	建設省 住宅局	大島
17	火	住宅金融のしくみ	住宅金融公庫	米森修一
		大都市圏における住宅行政と住宅問題	東京都住宅局	上野晴雄
18	水	団地見学 北砂五丁目 (公団)	住宅・都市整備公団	佐古倫平
		〃 戸山ハイツ (公営)	東京都 住宅局	上野晴雄
19	木	集合住宅の維持・管理のしくみ	住宅・都市整備公団	松岡勝博
		国際科学技術博覧会の概要／討論会(住宅政策等)	(財)	野津敏紀
			金子勇次郎・青木貫裕・上野晴雄	
20	金	都市政策の体系	建設省 都市局	押田彰
		土地区画整理事業のしくみ	建設省 都市局	小浪博英
21	土	休		
～	～			
23	月			
24	火	市街地再開発事業のしくみ	建設省 都市局	檜府龍雄
		住環境整備事業のしくみ	建設省 住宅局	小島
25	水	見学 舎人地区 (土地区画整理事業)	東京都 建設局	萬代信夫
		〃 白鬚地区 (再開発、改良)	東京都 建設局	武内利夫
26	木	コーポラティブ・ハウジングについて	日本大学生産工学部	神谷宏治
		住宅にかかる海外技術協力	建設省 計画局	保倉俊一
27	金	人口と都市問題	厚生省	岡崎陽一
28	土	休		
29	日			
30	月	東京 ⟶ 名古屋		
		地域開発の概論	U.N.C.R.D	長峯晴夫

月 日	曜	テ ー マ (午前 10：00－12：00) (午後 14：00－16：00)	講 師
12. 1	火	都市化と地域・国土開発	U.N.C.R.D 本城和彦
		〃	〃 〃
2	水	地域開発計画の手法	
		討 論 会	本城和彦・長峯晴夫
3	木	名古屋 ——→ 大阪	
		大阪府における住宅政策	大阪府建築部 桂 進
4	金	見学 大阪駅前再開発地区	大阪府都市再開発局 村上 正
		〃 南港ポートタウン	大阪府港湾局 安藤茂男
		〃 泉北ニュータウン 大阪 ——→ 京都	大阪府企業局 西岡康夫
5	土	↕ 〃 京都	
6	日	京都 ——→ 東京	
7	月	休	
8	火	土地政策の体系	建設省計画局 小畑 元
		宅地開発事業のしくみ	〃
9	水	ニュータウン計画のしくみ	住宅都市整備公団 早川 剛
		ニュータウン関連施設のしくみ	住宅都市整備公団 松田慎一郎
10	木	見学 多摩ニュータウン	住宅都市整備公団 稲田幸一郎
		〃 〃	
11	金	筑波研究学園都市の概要	住宅都市整備公団 石黒俊夫
		討論会（土地政策、ニュータウン等について）	住宅都市整備公団 早川 剛
			金子勇次郎・小畑元・石黒俊夫
12	土	↕	
13	日		
14	月	工業化住宅部品の開発	国際住政策研究所 金子勇次郎
		民間住宅産業の概要	ミサワホーム総合研究所 丹羽篤人
15	火	建築工法の開発	工学院大学 今泉勝吉
		建築資材産業の概要	〃
16	水	建築センター見学	国際住政策研究所 金子勇次郎
		ESCAP会議 （商工会議所）	
17	木	日本における建築家の活動と役割	東京大学 工学部 槇 文彦
		討論会（住宅生産技術等について）	金子勇次郎・丹羽篤人
18	金	休	
		エバリュエーション、閉講式	
19	土	↕ 休	
20	日		
21	月	帰 国	

部長	次長	管理課長	管理課長代理	研修課長	研修課長代理

研修実施報告書

研修事業部研修第一課
外川 徹　　57年1月12日

1. 区分	(集団)(Ⅰ.Ⅱ.日墨)　個別(単発.カウンターパート.国際機関)　特定地域
2. (集団)コース番号.コース名	(53)　住宅建設
3. 待遇	(一般)　準高級　高級
4. 関係省庁受入機関	建設省住宅局住宅政策
5. 受入期間	56年10月29日から　56年12月21日まで
6. G.I.送付時期(JICA→外務省)	56年4月2日(研修員来日予定日の6カ月前)
7. 外務回答日	(第1回)56年10月2日　(第2回)　年　月　日　(最終)　年　月　日
8. 研修員数	定員:15　応募人数:25　受入回答人数:17　受入人数:17

9. 国別応募状況

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
大韓民国	1	1	ビルマ	1	1
ブラジル	1	1	サウディアラビア	1	1
シンガポール	1	1	フィリピン	4	1
スリランカ	1	1	インドネシア	1	1
シリヤ	2	1	エルサルバドル	1	1
バングラデシュ	2	1	イラク	1	1
タイ	2	1	中国	1	1
ケニヤ	1	1	ヴェネズエラ	1	0
マレイシア	2	1			
ガーナ	1	1	計	25	17

10. 研修実施経費	基準予算 (千円)	実行予算(A)(千円)	支出依頼済額(B) (千円)	差額(A−B) (千円)
総額	2,850	2,796.25		
人月数	30	30		
1人月当たり経費	95	93.2		

11. 研修監理について　※ 半日を1単位として記入

講義・実習数(A) ※	講師による英語講義・実習数(B)	監理員による通訳講義・実習数	B/A (%)
44	35	9	80%

(コメント)　今回の監理員は本コース3回監理員を経験みている岡部昭子さんであった。反省会、評価会を通じてコースが年を追う毎に改善されていることを感ずるが、それはコースリーダーの金子氏、建設省の担当の他研修監理員に負う所大である。次回も本コースに精通した岡部さんを希望したいが別の方が監理員になるとしても岡部さんが蓄積したものを充分引継いだ上本コースに当ることを希望する。座学では監理員に説明をたよることは少いが見学では殆ど監理員に通訳を任しているので初めての監理員なら相当の準備が必要であろう。

12. 研修上の評価(研修が集団の場合G.I.記載の通りに個別の場合あらかじめ計画した通りに実施されたかどうか。次の該当するものに○印をつける。)

(1) 計画通りに実施
(2) ほぼ計画通りに実施
(3) 計画通りに実施できない部分あり

(コメント)　講義、見学ともに満足のいくものである。研修員の中にカントリーレポートの発表にもっと時間を割当ててほしいという要望が多いので今後参加者の積極的な発表、討論をプログラムの中に組み込み効果的な研修にしたい。又現在の関西・名古屋旅行の中に産業見学を組み入れる検討、それ以外に筑波学園都市見学並びにコースリーダーを交えた夕方の討論会の検討が今回のコースの反省会で出た課題である。又今後のコース運営(テキストの見直し、etc)の改善の意味でも今回お願いした金子コースリーダーに次回もお願いしたい。

建－15	コース名： 建 築 技 術	定員 15 名

受入期間： 57. 3. 4 ～ 57. 4. 23

関係省庁： 建設省住宅局，建設省建築研究所

受入機関： 筑波インターナショナルセンター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
メキシコ	1	0	インドネシア	3	1
シンガポール	2	1			
トルコ	1	1			
パキスタン	1	1			
タイ	2	2			
バングラデシュ	1	1			
イラク	2	1			
ビルマ	1	1			
マレイシア	2	1			
コロンビア	1	1			
ジャマイカ	1	1			
サウディアラビア	1	1			
インド	1	1			
ヴェネズエラ	1	0			
アルジェリア	1	0			

受 入 担 当： 大久保宏明（本部），桜井英充（筑波インターナショナルセンター）

コーディネーター： 中安美恵子

建築技術日程表

上段：午前　１０～１２時
下段：午後　　１～　３時

月	火	水	木	金
			3／4 来　日	5
8	9	10	11	12
オリエンテイション				
15 移動 東京→筑波 オリエンティション	16 Introduction 総　論　Ⅰ	17 建築法制度 総　論　Ⅱ	18 建築士事務所 レポート発表討論	19 事務所 見学 超高層建築物
22	23 規　格 建築施工総論	24 学会規準 施工体制	25 構造設計技術Ⅰ 超高層 建築物施工技術	26 筑波研究学園 見学 都市施設
29 建築研究所 建築研究所	30 環境設備 設計技術Ⅱ 建設会社	31 構造設計技術Ⅱ 一般公共建築物	4/1 公的住宅建設 プレハブ 建築物施工技術	2 プレハブ建築物 見学 公団(公営)住宅
5 教育活動 筑波大学	6 環境設備 設計技術Ⅰ 日本建築センター	7 構造設計技術Ⅲ 鉄鋼メーカー	8 品質管理 プレハブ業	9 プレハブ部品工場 見学 鉄骨加工工場
12 研	13 修	14	15 旅	16 行
19 防災設計技術Ⅰ 防災設計技術Ⅱ	20 標準仕様書 民間研究活動	21 海外協力活動 エバリュエイション	22 移動 筑波→東京	23 雛　日

57. 2. 19

建一特	コース名： （特設）台風予警報（水文・防災）	定員 11 名

受入期間： 56. 7. 23 ～ 56. 8. 21

関係省庁： 科学技術庁，建設省，国土庁

受入機関： 同 上

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
（気 象）			（水文・防災）		
中国	1	1	中国	1	1
タイ	1	1	タイ	1	1
大韓民国	1	1	大韓民国	1	1
フィリピン	1	1	フィリピン	1	1
マレイシア	1	1	マレイシア	1	1
香港	1	1			

受 入 担 当： 大久保宏明

コーディネーター： 山口啓子（気象）， 福田陽子（水文・防災）

(特) Ⅱ　水文・防災・部門

1. Evaluation Meeting の内容

1－1　期間は適当であった。

1－2　コースの時間配分

水文関係の問題にもっと重点をおいてほしかった。

1－3　講　義

○非常に有益であった。

○水文分野の講義を増やしてほしかった。

○講義の明瞭度及び理解度は概６０～７０％

その理由は、８月８日～８月１８日日間の東京における期間によるものが多いように見受けられた。

○通訳を介すると質問をするときももどかしく感じるので講師が直接英語で答えるべきである。

1－4　教　材

豊富に提供され、有益であった。

1－5　見　学

○京都以外はすべて有益であった。できれば、洪水被災地（北海道）の様子を見学したかった。

○有益であった。ただし水位・雨量等の観測所の実地見学をしたかった。

1－6　カントリレポート

必要であり、有益であったが、事前に作成に際しての詳しいガイドラインを呈示してほしかった。

1－7　生活環境

総じて良好。特に問題なし、通勤時間が長すぎた、できればＴＩＣに宿泊したかった。なお、ＴＩＣについては反対意見もあった。

2. 問題及び反省点等

2－1　本セミナーの性格を３つの期間に大別できる。

a．7月 29日　～　7月31日　（東　京）

b．8月　3日　～　8月　6日　（大　阪）

c．8月　8日　～　8月18日　（東　京）

aの期間については、研修員の評判もよく、コースの内容にも連関性が流れており、講師も英語で直接的が多かった。

bの期間についても、建設省近畿建設局淀川ダム統合管理室で統轄して行われたため、連関性がよかったようであるが、講義の時間が少なかったようである。

cの期間は、講師がほとんど受入機関以外であったため、講義の内容の連関性が少ない上、講師がほとんど日本語でやったため（２人を除く）概して研修員の評判が悪かった。

2－2、2－1の(a)と(c)の期間は、ほとんど毎日防災センターのＤr. 渡辺か又はＤr.木下が出席し、コースリーダーの役割を演じてくれたため、非常にありがたかった。

2－3、カントリーレポートの発表会は、盛況で有益であったように見受けられたが、１人の持ち時間が少

なかったとの評もある。

2－4、本研修は、WMOのプログラムの方に入っていなかったためか、気象部門のように研修員側にも、研修に来ているとの意識があるように見受けられ、自分達の立場に対する不満は生じなかった。

さらに、JICA受け入れ以外の研修員は、参加しなかったためか、各研修員間のまとまりも割合うまくいっていたようである。

2－5、担当としては、本研修は、関係各機関が多すぎて最初のうちは連絡等があまりうまくいかなかった。

3. 結　　論

本研修は、他の一般の研修とほぼ同じであり、健康管理等の運営上の問題も少なく、又、研修の成果も上っていると考えられるので、今後続けると判断してさしつかえないと思うが、本来の一つの意義である気象部門と同時にしかも合同ミーティングを持つことの意味がよく理解できなかった。

ＴＯＰＥＸ水文・防災セミナー日程

時期 月・日	時期 曜	内容	備考
7・23	木	来日	
24	金	Briefing	
25	土	Free	
26	日	Free	
27	月	関係各省庁表敬	
28	火	気象・水文・防災３部門合同セミナー	別添１参照
29	水	水文・防災セミナー	別添２参照
8・18	火		
19	水	気象・水文・防災３部門合同セミナー	別添１参照
20	木	帰国準備	
21	金	離日	

別添1

気象・水門・防災・3部門合同セミナー

時期		内　　容	講　師（所属・役職）	備考
月・日	曜日			
7・28	火	AM（10：00～12：00）： PM(13：30～15：30)		
		(AM)台風委員会とTOPEX活動	清水逸郎（気象庁予報部長）	
		(PM)気象・水文・防災部門の活動	新田　尚（気象庁予報部業務課長） …気象部門担当 木下武雄（科技庁国立防災科学技術センター第1研究部長）…水文・防災部門担当	印済
8・19	水	(AM)気象・水文・防災合同最終検討会	○（座長）渡辺一郎（科技庁国立防災科学技術センター第4研究部長） 新田　尚（気象庁予報部業務課長） 竹村公太郎（建設省河川局河川計画課長補佐） 田畑茂晴（国土庁長官官房防災企画課長補佐）	
		(PM)　同　上	外務	
		15：00　Evaluation		
		18：00　閉講式	○所長	

別添 2

水文・防災セミナー

時期 月・日	曜日	内容	講師（所属・役職）	備考
		AM（10:00~12:00）、PM(13:30~15:30)		
7・29	水	(AM) 日本の防災制度	佐藤恒夫（国土庁長官官房防災企画課業務第1係長）	印済
		(PM) 防災のための法体系	○楊井貴晴（国土庁長官官房防災企画課企画係長）	〃
30	木	(AM) カントリーレポートの発表・討論(1)	竹村公太郎（建設省河川局河川計画課長補佐） 吉田　薫（建設省河川局河川計画課）	(3人)
		(PM) カントリーレポートの発表・討論(2)	(座長)木下武雄（国立防災科学技術センター第1研究部長） 田畑茂清（国土庁長官官房防災企画課長補佐）	(5人)(3人) (2人) 外務(1人)
31	金	(AM) 総合治水	○吉野文雄（建設省土木研究所総合治水研究室長）	7/25に提出 印刷済
		(PM) 洪水危険地図	○赤桐毅一（建設省国土地理院地理調査二課）	未
8・1	土	Free		
2	日	Free		
3	月	(AM) 移動（東京－大阪）		
		(PM) 洪水予報の手法Ⅰ	○中尾忠彦（近畿地方建設局企画部長）	降雨があった場合時間外に直ちに洪水予報及び警報伝達の実習
4	火	(AM) 洪水予報の手法Ⅱ(1)	○中尾忠彦（近畿地方建設局木津川上流工事事務所長）	
		(PM) 洪水予報の手法Ⅱ(2)	○同上（同上）	
5	水	(AM) 淀川のシステムのケース・スタディ(1)	○小林　武（近畿地方建設局淀川ダム統合管理事務所長）	未
		(PM) 淀川のシステムのケース・スタディ(2)	○橋本禎剛（近畿地方建設局淀川ダム統合管理事務所　広域・水管理課長）	
6	木	(AM) 洪水予報のハードウェア	○中尾宏臣（近畿地方建設局淀川ダム統合管理事務所　電気通信係長）(0720)－56－3131	
		(PM) 無線機器の運用と維持	○一宮邦夫（近畿地方建設局電気通信課長）	

時期 月・日	曜日	内容	講師（所属・役職）	備考
		AM(10:00~12:00)、 PM(13:30~15:30)		
8・7	金	京大防災研究所見学（宇治） （京都市内見学含む）	担当　建設省	
8	土	移動（大阪 ー 東京）		
9	日	Free		
10	月	(AM) 高潮 (PM) 災害予防のための学校教育 人的災害	岡田正実（気象庁海洋気象部海洋課） ○吉田（文部省学校保健課）　吉田	未 教　8/10
11	火	(AM) WD/IE Activities Typhoon Committee. Counter Disaster Measures (PM) 災害時の広報活動について	Mr. Tang Mr. Docto 柳沢（日本放送協会総務局管理部）	未
12	水	(AM) 災害時の情報伝達 (PM) 警報に対する住民の行動	○石田（国土庁長官官房防災企画課長補佐） ○風間（都市調査会）	8/10
13	木	警報システム見学	（担当）中村（東京都総務局災害対策部企画課） 8:50 防災2名 木下	
14	金	(AM) 災害救助法について (PM) 赤十字活動について	○阿部（厚生省社会局施設課） ○中沢（日本赤十字社会部救護課）	8/10
15	土	Free		
16	日	Free		
17	月	救援活動見学 （船での見学含む）	（担当）中村（東京都総務局災害対策企画課） 8:40	
18	火	(AM) 防災知識の普及 (PM) 報告書の作成	（指導）木下武雄（国立防災科学技術センター 第1研究部長）	印刷済

大－1	コース名： 貨幣及び勲章製造	定員 5 名

受入期間： 56. 4. 2～56. 9. 28

関係省庁： 大蔵省造幣局

受入機関： 大阪国際研修センター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インドネシア	3	1			
ネパール	1	1			
ペルー	1	1			
フィリピン	1	1			
タイ	1	1			
スーダン	0	0			
マレイシア	0	0			

受入担当： 新田 節（本部），大谷勝美（大阪国際研修センター）

コーディネーター： 荒井陽子

昭和56年度貨幣及び勲章製造コースは、研修員5名が参加して、4月2日に開講し9月28日に無事終了いたしました。

本コースのプログラム編成および研修実施は、大蔵省造幣局の全面的なご指導とご協力を得て運営されているもので、例年、参加研修員に高い評価をうけ、また、参加諸国の造幣技術の向上に寄与して参りました。

本コースは昭和43年度開設以来、本年度をもって第13回をかぞえており、この間の参加国の数は15ケ国、受入研修員の数は68名に達しております。

この報告書は、本年度の研修実施の概要をとりまとめたものであります。研修を更に充実するために、大方のご意見とご指導をいただければ幸いであります。

昭和56年10月

国際協力事業団
大阪国際研修センター
所長　桑　原　正　男

1. 総　説

(1) コースの沿革

貨幣及び勲章製造コースは、昭和43年に第1回「貨幣鋳造集団研修コース」として開設された。開設の目的は、日本の高い造幣技術を発展途上国の造幣局に働く技術者に伝え、この分野での発展を基盤に各国の産業発展に寄与すると共に、国際親善にも役立てようというものであり、開設にあたっては、昭和41年8月から昭和43年6月まで造幣局総務部長として在職された高橋謙二氏（以前に、海外技術協力事業団総務部長として勤務）の尽力があったことを特筆したい。

第1回の参加者数・国名は別表の通りであるが、この年にはフィリピンから女性技術者が参加した。

昭和46年度は都合により中止された。

第4回（昭和47年度）からは、研修効果を従来以上高めるために、コースの後半に研修員独自の希望を入れて、それぞれ希望する現場での個別の研修ができるよう「専門研修制度」を採用し、また、その内容に即して、翌昭和48年度からは、コース名を現在の「貨幣及び勲章製造コース」に改めて現在に至っている。

(2) コースの目的

(1) 応募者の資格としては、①各国の政府から推せんされた者　②少くとも工業高校卒業以上の学歴を有すること　③現在、貨幣及び勲章製造に従事していること　④35才以下であること　⑤英語の読み書きに堪能であることと　⑥研修をうけるに充分な健康状態にあることである。

(2) コースの目的は、開展途上国の貨幣及び勲章製造、金属分析及び貴金属精製等の業務に従事する技術者を対象とし、溶解、圧延、成形、圧印、検査、分析、精製の理論的、実際的な技術について講義、実習と見学を通じ、その専門知識と技術の向上を図ることを目的としている。

(3) 期間は、昭和56年度の場合は、昭和56年4月2日から昭和56年9月28日までの6カ月である。

(3) 研修員選考の経緯

募集要綱の送付先は6カ国で、応募ならびに受入状況は別表のとおりである。

表1. 割当、応募ならびに受入状況表

国名	割当員数	応募員数	受入決定員数
インドネシア	1	3	1
ネパール	1	1	1
ペルー	0 (注)	1	1
フィリピン	1	1	1
スーダン	1	0	0
タイ	1	1	1
	5	7	5

(注) ペルーは当初割当国ではなかったが、同国より強い要請があったため受入れることにした。

なお、選考の判断基準は、

(1) 応募者の現職と希望内容がコースの研修内容と良く合っていること。

(2) 原則として１カ国１名ずつとすること。

(3) 定員（５名）を遵守すること。

(4) 年令は３５才以下とすること、の４点である。

インドネシアから応募のあった３名のうち、２名は上記理由(2)、(3)、(4)により受入不可となったものである。

受入不可になった応募者の氏名、現職等は以下のとおりである。

(1) 国名；インドネシア

氏名；Mr. Soelaiman Arief （４５才）

学歴；工業学校卒

現職；インドネシア造幣局検定課長

(2) 国名；インドネシア

氏名；Mr. Zulkifli Daham （３０才）

学歴；工業学校卒

現職；インドネシア造幣局工作課職員

(4) 研修の概要

研修内容の項目別に分ければ下表の通りである。

表2　4月2日～9月28日（180日）における内容別日数

内　　容	日　　数
ブリーフィング及びオリエンテーション	7
日本語講習（集中コース）	21
講義及び見学（一般研修）	15
個別研修（個別専門研修）	53
工場見学	3
研修旅行	12
研修終了式（造幣局）	1
最終報告書作成	1
研修評価会	1
開講式	1
その他※	65
合　　計	180

※ その他 ；移動日及び土曜日、日曜日、夏休み等の休日

当コースは研修期間を一般研修と専門研修の二つに分けられる。一般研修においては、貨幣および勲章の製造に必要な溶解から検査までの全工程及び分析、精製の一般的技術知識を習得せしめることを目的とし、専門研修においては、研修員一人一人が持っている希望研修テーマに基づいて日程表を作成し、専門的技術知識を更に深めることを目的とする所謂「個別

専門研修」を実施した。

研修旅行においては造幣局　東京支社、広島支局、熊本出張所の見学を通して、わが国の造幣事業の実態をより理解させるとともに、わが国の代表的な諸企業の工場見学を行ない、専門的および一般的な知識と見聞を広めしめた。

2. 参加研修員名簿　　略

3. 昭和56年度貨幣及び勲章製造コース研修プログラム

月	日	曜日	研修科目	研修場所	担当
4	2	木	研修員来日		
	3	金	ブリーフィング		
	4	土	自由		
	5	日			
	6	月	JICAオリエテーション 日本の歴史，政治，経済，社会，文化等について	TIC	JICA
	7	火		〃	〃
	8	水		〃	〃
	9	木		〃	〃
	10	金		〃	〃
	11	土	研修員来阪	OITC	
	12	日	自由		
	13	月	OITCオリエテーション	OITC	JICA
	14	火	集中日本語講習 （土．日．祭日を除く）	OITC	JICA
5	17	日			
	18	月	来局挨拶，研修プログラムについての説明 （14:30～16:00）	造幣局	技術第一課，教習所
	19	火	造幣局工場見学	〃	〃
	20	水	講義： 造幣局の概要	〃	景山教習所長
	21	木	講義．見学： 裝金．工芸工程	〃	松岡工芸指導官
	22	金	講義．見学： 極印工程	〃	新田極印課長補佐
	23	土	自由		
	24	日			
	25	月	講義．見学： 試験．分析工程	造幣局	荒木試験製錬課長補佐

月	日	曜日	研修科目	研修場所	担当
5	26	火	講義．見学： 製錬工程	造幣局	安藤製錬係長
	27	水	講義．見学： 研究室	〃	川崎研究主事
	28	木	講義．見学： 工作工程	〃	納庄工作課長補佐
	29	金	講義．見学： 溶解工程	〃	国島溶解第一係長
	30	土	自由		
	31	日			
6	1	月	講義．見学： 貨幣第一課総論	造幣局	稲垣貨幣第一課長
	2	火	講義．見学： 圧延工程	〃	館野熱間圧延係長 鍋島圧延第二係長
	3	水	講義．見学： 成形工程	〃	大地成形第二係長
	4	木	講義．見学： 圧印工程	〃	竹内圧印第二係長
	5	金	講義．見学： 検査工程	〃	上口検査第二係長
	6	土	自由		
	7	日			
	8	月	和歌山白浜方面見学		教習所
	9	火			
	10	水	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	11	木	〃	〃	〃
	12	金	〃	〃	〃
	13	土	自由		
	14	日			
	15	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	16	火	〃	〃	〃
	17	水	〃	〃	〃
	18	木	〃	〃	〃

月	日	曜日	研修科目	研修場所	担当
6	19	金	民間工場見学	三谷伸銅㈱	教習所及び技術系職員
	20	土	自由		
	21	日			
	22	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	23	火	〃	〃	〃
	24	水	〃	〃	〃
	25	木	〃	〃	〃
	26	金	〃	〃	〃
	27	土	自由		
	28	日			
	29	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	30	火	〃	〃	〃
7	1	水	〃	〃	〃
	2	木	〃	〃	〃
	3	金	〃	〃	〃
	4	土	自由		
	5	日			
	6	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	7	火	〃	〃	〃
	8	水	〃	〃	〃
	9	木	〃	〃	〃
	10	金	民間工場見学	グロリー工業㈱	教習所及び技術系職員
	11	土	自由		
	12	日			

月	日	曜日	研修科目	研修場所	担当
7	13	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	14	火	〃	〃	〃
	15	水	〃	〃	〃
	16	木	〃	〃	〃
	17	金	〃	〃	〃
	18	土	自由		
	19	日			
	20	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	21	火	〃	〃	〃
	22	水	〃	〃	〃
	23	木	〃	〃	〃
	24	金	〃	〃	〃
	25	土	自由		
	26	日			
	27	月	東京支局，印刷局滝野川工場及び民間工場見学		技術系職員
	28	火			
	29	水			
	30	木			
	31	金			
8	1	土	自由		
	2	日			
	3	月	休み		
	4	火	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	5	水	〃	〃	〃

月	日	曜日	研修科目	研修場所	担当
8	6	木	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	7	金	〃 午後　民間工場見学	〃 新日本製鉄㈱堺工場	〃
	8	土	自由		
	9	日			
	10	月	夏休み		
	11	火			
	12	水			
	13	木			
	14	金			
	15	土	自由		
	16	日			
	17	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	18	火	〃	〃	〃
	19	水	〃	〃	〃
	20	木	〃	〃	〃
	21	金	民間工場見学	松下電器産業㈱	
	22	土	自由		
	23	日			
	24	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	25	火	〃	〃	〃
	26	水	〃	〃	〃
	27	木	〃	〃	〃
	28	金	〃	〃	〃
	29	土	自由		

月	日	曜日	研修科目	研修場所	担当
8	30	日			
	31	月	広島支局，熊本出張所及び民間工場見学		技術系職員
9	1	火			
	2	水			
	3	木			
	4	金			
	5	土	自由		
	6	日			
	7	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	8	火	〃	〃	〃
	9	水	〃	〃	〃
	10	木	〃	〃	〃
	11	金	〃	〃	〃
	12	土	自由		
	13	日			
	14	月	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	15	火	（敬老の日）		
	16	水	専門研修	造幣局	技術第一課及び製造部
	17	木	〃	〃	〃
	18	金	〃	〃	〃
	19	土	自由		
	20	日			
	21	月	技術討論会	造幣局	技術第一課
	22	火	レポート作成，造幣局終了式		

月	日	曜日	研　修　科　目	研修場所	担　当
9	23	水	（秋分の日）		
	24	木	14：00　エバリュエーション	OITC	
	25	金	14：00　閉　講　式	OITC	
	26	土	帰国準備		
	27	日			
	28	月	帰　国		

○ 研修時間：午前 10：00 ～ 12：00

午後 13：00 ～ 16：00

○ 造幣局における研修場所 ： 教習所第5教室，製造部内各工場及び研究室

JICA……国際協力事業団

OITC……国際協力事業団，大阪国際研修センター

TIC……国際協力事業団，東京インターナショナル・センター

個別専門研修日程

月	日	曜日	トーマス	スレンドラ	エドバス	カスタニヨン	サンティ
6	10	水	装　金 (12日)	圧　延 (12日)	圧　延 (5日)	圧　延 (5日)	装　金 (12日)
	11	木	〃	〃	〃	〃	〃
	12	金	〃	〃	〃	〃	〃
	15	月	〃	〃	〃	〃	〃
	16	火	〃	〃	〃	〃	〃
	17	水	〃	〃	溶　解 (2日)	溶　解 (2日)	〃
	18	木	〃	〃	〃	〃	〃
	22	月	〃	〃	圧　延 (5日)	圧　延 (5日)	〃
	23	火	〃	〃	〃	〃	〃
	24	水	〃	〃	〃	〃	〃
	25	木	〃	〃	〃	〃	〃
	26	金	〃	〃	〃	〃	〃
	29	月	溶　解 (4日)	溶　解 (4日)	極　印 (13日)	極　印 (13日)	溶　解 (4日)
	30	火	〃	〃	〃	〃	〃
7	1	水	〃	〃	〃	〃	〃
	2	木	〃	〃	〃	〃	〃
	3	金	圧　印 (3日)	圧　印 (15日)	〃	〃	圧　印 (3日)
	6	月	〃	〃	〃	〃	〃
	7	火	〃	〃	〃	〃	〃
	8	水	極　印 (9日)	〃	〃	〃	極　印 (9日)
	9	木	〃	〃	〃	〃	〃
	13	月	〃	〃	〃	〃	〃

月	日	曜日	トーマス	スレンドラ	エドバス	カスタニヨン	サンティ
7	14	火	極　印	圧　印	極　印	極　印	極　印
	15	水	〃	〃	〃	〃	〃
	16	木	〃	〃	〃	〃	〃
	17	金	〃	〃	圧　印 (6日)	圧　印 (6日)	〃
	20	月	〃	〃	〃	〃	〃
	21	火	〃	〃	〃	〃	〃
	22	水	製　錬 (3日)	〃	〃	〃	製　錬 (3日)
	23	木	〃	〃	〃	〃	〃
	24	金	〃	〃	〃	〃	〃
8	4	火	研究室 (3日)	装　金 (3日)	装　金 (3日)	研究室 (3日)	工　芸 (7日)
	5	水	〃	〃	〃	〃	〃
	6	木	〃	〃	〃	〃	〃
	17	月	工　芸 (4日)	工　芸 (9日)	工　芸 (9日)	試　験 (6日)	〃
	18	火	〃	〃	〃	〃	〃
	19	水	〃	〃	〃	〃	〃
	20	木	〃	〃	〃	〃	〃
	24	月	研究室 (5日)	〃	〃	〃	圧　延 (5日)
	25	火	〃	〃	〃	〃	〃
	26	水	〃	〃	〃	E 製　錬 (3日)	〃
	27	木	〃	〃	〃	〃	〃
	28	金	〃	〃	〃	〃	〃
9	7	月	工　芸 (2日)	溶　解 (1日)	工　芸 (2日)	技術一課 (2日)	工　芸 (2日)
	8	火	〃	圧　延 (2日)	〃	〃	〃
	9	水	装　金 (3日)	〃	装　金 (3日)	研究室 (3日)	装　金 (3日)

月	日	曜日	トーマス	スレンドラ	エドバス	カスタニヨン	サンティ
9	10	木	装　金	成　形（2日）	装　金	研究室	装　金
	11	金	〃	〃	〃	〃	〃
	14	月	極　印（4日）	圧　印（2日）	極　印（4日）	企画課（2日）	極　印（4日）
	16	水	〃	〃	〃	〃	〃
	17	木	〃	工　芸（2日）	〃	技術一課（2日）	〃
	18	金	〃	〃	〃	〃	〃

4．昭和56年度貨幣及び勲章製造コース
研修員最終報告書要約

Thomas M. Karmadi　（インドネシア）

〔研　修　評　価〕

- 日本語コース：研修員は、英語を解する人の少ない日本社会で生活するのであるから、このコースは、大変重要で、有益なものであった。授業方法、教材、設備は満足のいくものであった。
- 個別研修：装金、極印製造、工芸、各課で行った研修に於ては、経験豊かですぐれた担当者と、技術一課職員の方々の親切な指導を受け、多くの知識と情報を得ることができた。実習に際しては造幣局の設備を利用して十分な訓練を受ける事ができたことを感謝している。この成果をもって、インドネシアの造幣技術の発展に大いに貢献したいと思う。

〔今後の研修をよりよくするための提案〕

- 今回の研修員は5名であったが、研修監理員は2名であったため、個別研修では通訳なしで訓練を受ける場合があり不便を感じた。
- 造幣局は外注品が多いので外注業者の工場見学を組込んでもらいたい。
- ＯＩＴＣでは、大きい話し声、音量をあげたレコード等の騒音に悩まされた。改善をおねがいしたい。

〔帰国後の計画〕

- 極印製造工程（特に圧写、表面研磨）の改良。
- 造幣局に於ける七宝製品製造。

・種印用石膏型の利用。

〔ＪＩＣＡに対する要望〕

研修員帰国後も定期的に参考文献が手に入るようにしていただきたい。ＪＩＣＡが提供できる情報、文献のリストから選んで注文できるようになれば、日本で得た知識の不足をおぎない、最新情報を得る事ができる。

〔日本について〕

日本人は勤勉で自信と強い精神力をもって仕事にはげみ、高度に発達した技術社会をつくりあげる事に成功している。近代的設備をもつ工場ではすぐれた品質管理システムのもとで製造が行われている。

日本の国土は狭いが、よく利用され、都市、山間部を問わず美しい景色が楽しめる。

又、日本は治安状態が大変良く、犯罪率も低く、滞在中不安を感じた事はなかった。

日本人は礼儀正しく親切である。

ＯＩＴＣの職員の方達も大変親切にして下さり、６ヶ月の間、家族的雰囲気の中で過ごし、よい研修ができたと感謝している。

Surendra D. Pradhan （ネパール）

〔研　修　評　価〕

・日本語コース：日本語の知識が皆無であった私にとって、このコースは、日常生活を送るうえで大変役に立った。

・個別研修：熱間圧延、成形、溶解、装金、各課で受けた研修に於て得た技術、情報の多くは、私にとって新しく、有益なものであった。私

は興味と熱意をもってこの研修にのぞんだ。この成果をもって母国ネパールの造幣技術の向上につくしたい。

〔このコースをよりよくするための提案〕

造幣局の仕事の内容の深さ、技術の高さから考えて、私にとって6ヶ月の研修期間は短かすぎた。十分な知識と訓練を得るためにも期間は長い方が良い。

〔帰国後の計画〕

ネパール造幣局では、近い将来、業務拡大が行われる予定である。新しい工場、施設の増加に際して私が日本で得た技術と情報が利用できると期待している。

〔ＪＩＣＡに対する要望〕

研修参加者に対して、５年ごと位の間隔で再研修コースを設けていただきたい。急速な技術の進歩に追いつくのに有益であると思う。

〔日本について〕

日本は美しい国土を持ち、日本人は、その社会と文化を急速に変化させつつ伝統を保って生活している。

又、日本人は礼儀正しく、親切で、私は家族の一員のように受け入れてもらえて感激した。

高度な技術のみならず、日本の芸術、華道にも心をうたれた。

Santi Chansangsri （タイ）

〔研 修 評 価〕

・溶解課：親切で詳しい説明を受けた。特に、低周波誘導炉と高周波誘導炉の比較についての説明は、タイ造幣局溶解課の現在、及び将来の作業に有益である。

・極印、装金、工芸：デザイン、彫刻、原型、電鋳板の製造過程について、実習もふくめて有益な研修を受けた。教官のご親切な指導によって、多くの知識を得た事に心から感謝している。熱処理および縮彫の教官の詳しく解りやすいご指導も大変有難く思っている。

・研修旅行：広島、九州方面への旅行では、原爆ドーム、記念館、宮島、別府など興味深い場所や美しい風景を見学できた。
広島支局では、近代的な機械を、東洋工業では自動車製造工程を見学したが、これはすばらしい経験であった。研修員全員が広島支局の職員の方々の暖かい歓迎を感謝している。

〔今後のコースの改善のための提案〕

研修員は、1ヶ月の日本語学習を行ったが、造幣局での研修に利用できる程の日本語能力は得られなかった。一方、造幣局でも英語を話される職員の数は少ない。また、監理員の数も少ないので、個別研修に際して英語のテキスト、情報を用意しておいていただきたい。

〔帰国後の計画〕

日本で得た知識の全てを造幣局の貨幣製造、品質管理、特に極印製造の面で応用したい。
現在、タイ造幣局では記念貨幣、勲章、メダルのみを製造し、一般通貨用の円形は輸入にたよっている。

将来、円形の大量生産を可能にするため、日本造幣局にならって近代的機械の導入を行いたい。

〔ＪＩＡＣへの要望〕

タイ造幣局製造の貨幣の品質をたかめ、より能率的な貨幣製造を可能にするため、次の事をお願いしたい。

- 新しい技術を身につけた技術者を養成するために、毎年少なくとも１名の研修員を、タイから受け入れてもらいたい。
- 最新の造幣技術、機械設備についての情報を定期的に提供してもらいたい。
- できれば、必要な機械類を供与してもらいたい。

〔日本について〕

- 交通機関が大変発達している。
- 日本人は勤勉で、国家と、自分の属する会社に対して忠誠心をもっている。また、責任感が強く、親切で清潔である。
- 日本は急速に発展をなしとげた国であるが、同時に古い習慣、文化、芸術をよく保存している。
- 日本の高度な技術に感心した。山間地帯の多い全国土に水道、電気が供給されているのに驚いた。

Abelardo Eduvas （フィリピン）

〔研　修　評　価〕

- 日本語コース：このコースは、研修員が日本人とその社会を知るために非常に有益である。

コースの期間が短かく、語彙力はつかなかったが、日常生活では大変役に立った。

・講義と見学：講義では、優秀な担当者から各課について、基本的な知識を得た。講義と見学の組合せによって造幣局で行われている種々の作業について総合的な知識を得ることができた。

前もってテキストやパンフレットが用意されていた講義は大変よく理解できたが、反面、テキストの用意がなかったり、時間がたりなかったり、言葉の問題などで十分な討論ができない場合もあった。

・個別研修：造幣局の職員の方達の親切で忍耐強い指導のもとで、各課の作業の流れをよく学ぶことができた。

実習ができなかったところは、講義で補ってもらえた。

研修監理員の数が少なく通訳なしで行われた研修があったのは残念であった。しかし、この研修全体を通して私が得た知識と技術の価値は計りしれないものがある。

・研修旅行：研修旅行は全てよく準備され、計画されていた。資料の準備やオリエンテイションにも満足している。

私達を受け入れて下さった各支局、出張所、民間工場の皆様の歓迎に心から感謝している。

また、研修旅行では、精度の高い機械類の操作を行っている近代的工場を見学できただけでなく、日本の代表的な名所や美しい風景を楽しむことができた。

〔今後の研修をより良くするための提案〕

・最も困ったのは言葉の問題であった。通訳なしの研修を無くするためには、個別研修の計画の段階で十分な調整を行う事が望ましい。

・監理員にとって専門用語の通訳は困難な場合があるので研修員が講義又は実習に先立って読んでおける教材を用意してもらえると良い。

・ＯＩＴＣでは、夜間に音量をあげたレコードなどの騒音に悩まされた。このような場合、警備員やフロントの係員の素早い対処が望まれる。

〔帰国後の計画〕

フィリピン造幣局の事業拡大計画にたずさわる。特に成形と勲章製造部門の新設に際して、今回の研修で得た知識と技術を役立てることができると期待している。

〔ＪＩＣＡへの要望〕

・研修参加者が今後とも貨幣製造に関して最新情報を得られるようパンフレット又は、刊行物を定期的に発行してもらいたい。

・フィリピンのような開発途上国から、より多くの研修員を受け入れてもらいたい。

・造幣局では、プルーフ・コイン製造をコースに加えていただきたい。

〔日本について〕

日本は高度に発達した技術社会である。生活水準は高い。

日本人が国家と自分の仕事に対して抱いている敬意、誠実さに感心した。

忍耐、寛大な精神も日本人の美徳である。

公共施設も個人の所有物と同様に大切にあつかわれている。

多様な外来文化を取り入れる一方、伝統文化に誇りをもち、日本国民として一致団結している。

Alvaro Castanon （ペルー）

〔研 修 評 価〕

・オリエンテイション：期間、テーマ、講義ともに大変良かった。

・日本語コース：良い先生に教えていただいたが、研修期間全体とのバランスから考えて期間が長すぎると思った。

・造幣局での一般研修：３週間の講義と見学は長すぎる。

・極印製造と研究室：まず理論を教えていただいて後に見学を行うと言う研修方法は大変すぐれた方法で、私はこれらの課から最も多くの事を学んだ。

〔今後の研修をより良くするための提案〕

・研修員の母国の造幣事情はさまざまな発達段階にあるので、個々の機械や設備について教えるよりは、基本的な理論に重点をおいて教え、各研修員は、その理論を応用して母国の造幣局での諸問題を解決するよう提案したい。

また、日本造幣局の長期にわたる経験とすぐれた技術を最大限に利用し各国の発展に役立てるためにも、研修員のレベルを一定の高さに保つよう選考の段階で考慮願いたい。

・ＯＩＴＣに望みたいのは、研修員の年令や生活経験を考慮して、宿舎に於ける規則をゆるやかにしてもらいたい。

〔帰国後の計画〕

６ヶ月にわたる研修で得た成果をペルー造幣局の各部門の改善、発達に役立てたい。

〔ＪＩＣＡへの要望〕

将来もペルー造幣局職員をできるだけ多く受け入れていただきたい。研修プログラムは毎年改良され、宿泊施設も改善されることと期待している。

〔日本について〕

- 日本では、高度に発達した産業、技術と伝統的状況が共存している世界でも珍らしい国である。古い伝統や宗教、風習が世界最新技術と調和を保って生き続けている。同一民族国家である日本では、人々は上に述べた新らしい物と古い物の共存を、あるがままに受け入れ、一つの集団として国家の発展に向って働き続けてきた。
  これらが、日本が今日の繁栄を得た原動力であると思う。
- また、日本人は親切で、私は多くの面で助けていただいて感謝している。
- 経済大国としての日本は世界の各国の発展と共存、共栄のためにはたすべき役割が益々大きくなってくると考えられる。現在にもまして、この役割の遂行が将来要求されるであろう。

5. (1) 研修実施機関

国際協力事業団　　大阪国際研修センター

大阪府茨木市南春日丘5丁目1番28号

大蔵省造幣局

大阪府大阪市北区天満1丁目1番79号

(2) 協力政府機関および民間会社

大蔵省印刷局　滝野川工場

東京都北区西ケ原2丁目3番15号

グロリー工業株式会社

兵庫県姫路市下手野35番地

三谷伸銅株式会社

京都府京都市南区上鳥羽北花名町1番地

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006

日本鉱業株式会社　倉見工場

神奈川県高座郡寒川町倉見3番地

東洋工業株式会社

広島県安芸郡府中町新地3－1

6. 参 考 資 料

(1) 研修員受入実績

国別年度別受入実績

国名＼年度	'68 (43)	'69 (44)	'70 (45)	'72 (47)	'73 (48)	'74 (49)	'75 (50)	'76 (51)	'77 (52)	'78 (53)	'79 (54)	'80 (55)	'81 (56)	計
Bangladesh							1	1						2
Burma									1	1				2
India	1		1			1	1			1	1	1		7
Indonesia	1	1	1	1	1	1		1	2	1	1	1	1	13
Iran			1	1	1									3
Iraq												1	1	2
Korea	1	1	1	1	1	1		1	1					8
Malaysia								1	1	1				3
Nepal		1	1		1			1	1	1	1	1	1	9
Pakistan	1	1	2			1								5
Peru													1	1
Phillipines	1												1	2
Singapore					1									1
Taiwan		1	1	1										3
Thailand	1	1	1					1	1			1	1	7
計	6	6	9	4	5	4	2	6	7	5	4	5	5	68

大－2	コース名： 税 関 行 政	定員 12 名

受入期間： 56. 8. 20 ～ 56. 10. 19

関係省庁： 大蔵省関税局

受入機関：

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
バングラデシュ	2	1	シリア	1	1
ビルマ	1	1			
インドネシア	1	1			
マレイシア	1	1			
フィリピン	1	1			
シンガポール	1	1			
スリランカ	1	1			
タイ	2	1			
フィージー	1	1			
エジプト	2	1			
サウディアラビア	1	1			
ケニア	0	0			
ナイジェリア	2	1			
アルゼンティン	1	1			
ボリヴィア	2	1			

受入担当： 佐々木 幸 男

コーディネーター： 蔭 山 麻沙乃

税関行政コース実施概要について

本コースは、日本の関税行政を開発途上国の税関職員に紹介することにより、関税行政技術向上に寄与し、併せて税関職員同士の交流、相互理解を深め、友好親善に役立てる事を目的としたコースで、本年は設立１２年目を迎えた。

本コースの実施形態は主として、関税局にて別添要領に基づいた講義、比較研究（カントリーレポート発表及び技術的討議)及び電算業務を行ない，各地税関に於ては港内、保税地域コンテナヤード、保税工場等の見学及び旅具通関、輸出入通関・郵便物の通関等の実務研修を行なっている。関税収入は国によっては外貿収支の３０％を越える所もある為、内国歳入の要ともいえる為、比較的研修員の社会的地位は高く、制度上の問題に改善策を述べる態度は相当レベルの高いものとなっている。研修員の抱えている問題点は即、関税協力理事会（CUSTOMS COOPERATION COUNCIL；ガット協議会よりは更に作業レベルの国際組織)の問題と類似しており、通関査定の際の評価事務及び品目分類の統一化という国際的課題に準ずるものである。日本の関税局も事実その課題に精力を込めている昨今、国際環境の整備という面で技術協力面で研修員を招くことは単に技術移転ばかりでなく、大きな意義がある。関税の難関である評価事務は単純な課税査定、若しくは課税是正価値の面ではなく各国及び日本の関税政策の歴史をひも解く作業から始まって膨大な調査分析を要求されるため、複数国対象の比較研究の場を設定し得ることは、本コースの意義を大いに高めている。然し反面講義面に於ては（講師の英語による講義というメリットを考えてみても）その膨大な材料に押されて、充分に質問に答える時間がつくれないのが現状で、研修員は深く内容に触れることができない事は否めない。本コースの特徴の一つに、各講義見学説明の際にコースリーダー(講義・見学の時の技術的通訳を行なう）がいて研修員の技術的バランスを保つ役目を果たしているが、それ故、通訳業務は省側で行なってきている。然し、コースリーダーの業務多繁もしくは人事異動等でその対応も昨今盤になっておらず、本年度通訳業務を主体とした監理員の配置を初めて行なったのだが今後ＪＩＣＡ側の対応は、その事も加味した形で行なわれなければならない。本コースの研修項目は全部消化する姿勢を崩さずに実施してきたのだが、①全体のバランスとして講義より見学（実務施設中心）が多く、②項目内容が一致した講義と見学との時間的間が短かく、③研修員の最も問題とするところを系統的にまとめあげる努力を事前にしている，等の理由から無理のないコースとなっている。一方、研修員の方からは現場サイドである、東京税関等の業務上の流れを、更につっ込んで聞きたいという声も挙っている。

昭和56年度税関行政セミナー日程表

月/日	曜日	時間	研修内容等	講師 氏名	講師 所属	通訳 氏名	通訳 所属	コースリーダー 氏名	コースリーダー 所属	研修場所	備考
8/24	月		オリエンテーション・教養講座	国際協力事業団(JICA)						JICA	
～											
8/29	土										
8/30	日		休日								
31	月	AM	関税局長表敬,セミナーガイダンス等			佐藤	国二			関税局	総務課長主催
										〃	歓迎夕食会
		PM	関税行政組織機構	白藤	総務	佐藤	国二			〃	(18:30～20:30)
9/1	火	AM	関税行政組織・機構比較研究	〃	〃	〃	〃			〃	東京税関四谷寮
		PM	関税行政組織・機構比較研究	〃	〃	〃	〃			〃	
2	水	AM	関税政策	塚田	企画	蔭山	JICA	三宮	国一	〃	
		PM	関税関係法令	花井	〃	佐藤	国二			〃	
3	木	AM	輸入通関事務	中島	輸入	蔭山	JICA	細野	東京	〃	
		PM	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
4	金	AM	輸出通関事務	岡部	輸出	〃	〃	〃	〃	〃	
		PM	保税制度	山口	〃	古瀬	東京	中山	東京	〃	
5	土		大阪へ								東京→大阪
6	日		休日								
7	月	AM	神戸税関長表敬、保税展示場事務	喜田	神戸	佐藤	神戸	藤岡	神戸	神戸税関	
		PM	輸入関係他法令事務	青木	神戸	藤岡	神戸	佐藤	神戸	神戸税関	
8	火	AM	保税展示場実務		〃		〃			〃	
			(ポートピア'81見学)		〃	藤岡	〃			〃	
		PM	保税展示場実務		〃	有村	〃			〃	
			(ポートピア'81見学)		〃	佐藤	〃			〃	
9	水	AM	大阪税関長表敬		大阪	塩崎	大阪	宇田	大阪	大阪税関	
		PM	輸入通関実務	高野	〃	宇田	〃	塩崎	〃		
10	木	AM	港湾事情見学、コンテナー貨物実務	岩崎	大阪	塩崎	大阪	宇田	大阪	大阪税関	
		PM	港湾事情見学、コンテナー貨物の通関実務	美濃	大阪	宇田	大阪	塩崎	大阪	大阪税関	
11	金	AM	京都研修旅行								(大阪⇄京都)
		PM									
12	土		名古屋へ								(大阪→名古屋)
13	日		休日								

月/日	曜日	時間	研修内容等	講師 氏名	講師 所属	通訳 氏名	通訳 所属	コースリーダー		研修場所	備考
9/14	月	AM	名古屋税関長表敬、	神谷	名古屋	滝沢	名古屋	紀平	名古屋	名古屋税関	
		PM	輸出通関実務								
			輸出通関実務	神谷	名古屋	紀平	名古屋	滝沢	名古屋	名古屋税関	（名古屋
15	火		保税工場実務（トヨタ自工見学）東京へ	三木	三木			紀平	名古屋	〃	→東京）
16	水		休日								
17	木	AM	保税制度比較研究	山口	輸出	古瀬	東京	中山	東京	関税局	
		PM	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
18	金	AM	行政組織比較研修	白藤	総務	佐藤	国二				
		PM	保税展示場実務					宇野	国二	製品輸入促進協会	サンシャイン60
19	土		休日								
20	日										
21	月	AM	品目分類事務	草原	輸入			宇野	国二	関税局	CCC品目表部長オゲ氏講演
		PM									
			減免税制度	野中	輸入	三宮	国一			関税局	
22	火	AM	関税；分析的な考察	佐藤	関税局			三宮	国一	〃	審議官特別講義
		PM	関税政策	塚田	企画	蔭山	JICA	三宮	国一	関税局	
23	水		休日								
24	木	AM	監視取締事務	高取	監視	益子	横浜	三橋	横浜	関税局	
		PM	審理事務	友利	〃	中山	国二	〃	〃	〃	
25	金	AM	東京税関長表敬、審理実務	斉藤	東京			古瀬	東京	東京税関	
		PM	審理実務	斉藤	東京			古瀬	東京	東京税関	
26	土		休日								
27	日										
28	月	AM	外郵事務	野中	輸入	細野	東京	古瀬	東京	関税局	
		PM	外郵事務比較研究	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
29	火	AM	外郵実務（東京外郵見学）	石川	外郵	〃	〃	〃	〃	東京外郵	
		PM	外郵事務比較研究	野中	輸入	〃	〃	〃	〃	関税局	
30	水	AM	電算機による通関事務	緒方	電算管理室	〃	〃	岩下	〃	東航出張所	
		PM	電算機による通関実務（NACCS見学）	根本	東航	細野	東京	岩下	東京	東航出張所	
10/1	木	AM	通関業法	小林	輸出	蔭山	JICA	中山	東京	関税局	

月/日	曜日	時間	研修内容等	講師		通訳		コースリーダー		研修場所	備考
				氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属		
		AM	事後調査	岡川	輸入						
10/2	金		箱根研修旅行							箱根	(東京→箱根)
3	土									〃	(箱根→東京)
4	日		休日								
5	月	AM	特恵制度	愛甲	国一			宇野	国二	関税局	
		PM	分析事務(関税中央分析所見学)	出来	中分			宇野	国二	中央分析所	
6	火	AM	横浜税関長表敬、監視取締実務	小林	横浜	益子	横浜	三橋	横浜	横浜税関	
		PM	監視取締実務	小林	横浜	三橋	〃	益子	横浜	横浜税関	
7	水	AM	評価事務	弘井	輸入	蔭山	JICA	佐藤	国二	関税局	
		PM	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	
8	木	AM	成田税関支署長表敬		成田	中山	東京	岩下	東京	成田税関支署	
		PM	旅具通関実務	清水	成田	岩下	〃	中山	東京	〃	
9	金	AM	個別質問							関税局	
										〃	
10	土										
11	日										
12	月	AM	統計事務	早坂	輸出	宇野	国二	古瀬	東京	関税局	
		PM	研修制度(研修所見学)	大馬渡	研修所	細野	東京	木谷	国二	税関研修所	
13	火	AM	レポート作成、個別質問							関税局	
		PM								〃	
14	水		評価会議							〃	局長主催サヨナラパーティ(第一公邸)18.30～20.00)
15	木		JICA閉講式								

(注)関税局でのセミナーは本庁舎5階の第3会議室で行う。

なお、講義は、AM(09:45～10:45、休憩15分、11:00～12) PM(13:45～14:45休憩15分、15:00～16:00)の予定。

大－3	コース名： 一般租税セミナー	定員 30 名

受入期間： 56. 8. 27 ～ 56. 12. 11

関係省庁： 国 税 庁

受入機関： 八王子国際研修センター

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
バングラデシュ	1	1	ナイジェリア	0	0
ビルマ	1	1	ブラジル	4	1
インド	2	1	チリ	0	0
ネパール	2	1	メキシコ	0	0
パキスタン	2	1	パラグァイ	1	1
スリランカ	1	1	ウルグァイ	0	0
香港	1	1	ヴェネズエラ	1	0
西サモア	0	0	インドネシア	2	2
エジプト	3	1	大韓民国	2	2
イラン	0	0	マレイシア	3	2
イラク	2	1	フィリピン	2	2
クウェイト	0	0	シンガポール	3	2
サウディアラビア	0	0	タイ	2	2
トルコ	1	1			
リベリア	1	1			

受 入 担 当： 木村信雄（八王子国際研修センター），梅崎 裕（本部）

コーディネーター： 夏目満子，川本洋子

昭和５６年度一般租税セミナーについて

研修期間　昭和５６年８月２７日　～昭和５６年１２月１１日

研修員　Mr. Ashraf Hasan（バングラデシュ）　他２５名

研修機関　八王子国際研修センター
　研修課
　担当　木村信雄

国税庁　長官官房企画課
　課長補佐　梶山直己
　主任税務分析専門官　土屋重義
　調査係長　斉藤哲哉
　田中新治
　綱嶋勤、木村直人

宿舎　八王子国際研信センター

研修監理員　財団法人　国際協力サービスセンター
　夏目満子
　川本洋子

1981年度 一般租税セミナー Questionnaire for Final Course Evaluation及び評価会議事録要約

セミナー評価会 実施月日	12月7日(月)	14:00〜16:00
出席者	JICA研修員	Mr. Ashraf Hassan 他23名
		バングラデッシュ 他17カ国
	日本人研修員	3名 (国税庁)
	国税庁	梶山、土屋、斉藤、田内(企画課)
		綿島、木村(コースリーダー)
	JICA	笠井、梅崎、北林(研修一課)
		池田、折口、木村(HITC研修課)
		夏目、川本(研修監理員) 以上

＊I Objective(目的)

セミナーの趣旨についてまったく知識がなかった(1をつけた)と答えたのはリベリアのモービス氏、本国での彼自身への伝達に問題があったため、ただし彼は[2]の目的達成度及び[3]の希望達成度に5をつけたため、セミナー自体には、問題なし。

[1]、[2]及び[3]は、すべて4が主で5も多い。セミナーの趣旨は、良く理解され、達成されていると言える。

II－1 Logical order of topics

トピックの順序については、24名中22名が適切と答えた。

II－2 Dr. Homの「発展途上国での税制の役割」に9名、人気が高い理由:

a)アメリカ式のpresentationが良かった。2カ半日の日数でかなり突っこめた。

b)実務的な話で研修員らの国情にあったトピックであった。Prof Oldmanの「資産税」に2名。Dr. Homと対照的に理論の話であった。ただ1日では、講義が短かかった。

「人事・研修」の人気が高かった。

II－3 この除いてほしいトピックという項目についてトルコのムスタファ氏のコメント

ここに挙げたトピックは、除いてほしいと言うより指導方法上のADPに5名:

本国では、コンピュータ部門が独立していて税部門はこれに関する知識が必要ない(パキスタン、シャーヒッド)

将来指導的立場にある者は、ADPの構造概略を知っておくべきだ(ブラジル・メロ氏・日本人研修員)

不服申立制度に2名、他のトピックに1名ずつ、トルコのムスタフ氏のコメント同様、必要がないというより指導方法及び言葉に問題があった。

II－4 加えたいトピック

Value Added Tax (付加価値税)他のトピックの中で部分的にディスカッスされたが、十分でないので独立したトピックとして加えてほしいという希望が多い。

それに関して、ヨーロッパの講師希望。しかしこれは、日本人のＶＡＴの専門家でも可能という提案（パキスタン、シャーヒッド）租税哲学（３名）

日本人講師の中で理論としての日本の税制度について話をした人がほとんどいなかった。（スリランカ、スランジャン氏）実務・学術両面からテーマを取り上げる（国税庁）

Ⅱ－５　セミナー期間の長さについて

このセミナーの趣旨、内容からみて、3.5カ月は必要。ただし、セミナーという名称であれば通常は２週間。（パキスタン、シャーヒッド氏）内容からみて、この一般租税セミナーは、training course，研修であり、それならば、もっと長い方が良い。

（スリランカ　スランジャン氏）

Ⅲ　過半数は、自分と同じレベルの地位の人々向けのセミナーと答えているため現状でＯＫ。

２５名という今回の受入れ数も適当という意見

Ⅳ　Time allocation 時間配分

－講義がやや多く、ディスカッションが不足気味（全体の意見）

－ＮＴＡスタッフを交えてのディスカッションを希望　（トルコ・ムスタファ氏）

－各国の実情・税制度を学ぶためにグループディスカッションを推選する　（リベリア・モービス）

－論文作成の数をふやし、毎週リビューの意味でのリポートを提出させ、その週に習った事をベースにディスカッションを進める。（パキスタンシャーヒッド）

－しかし、あまりスケジュールがきついと、セミナーのもうひとつの目的、日本と日本人を知る時間がなくなる。私たちは、学生ではない。（シンガポール・トン　他。）

Ⅴ　運営管理（Management and Administration）

1. leadership & coodination

１１名から、９名が４，４名が３をマークしたことによって上出来であったと言える。

2. orientation　３が中心で右より、現状のオリエンテーションは満足のいくものと言える。

3. 雨・台風に泣かされたが、これだけは、どうすることも出来ない。

関西旅行のアレンジメントは最高であったと言える。

5. housing & food accommodations

センターの施設の評価は、ひじょうに高い食事については、改善してほしいと言う意見。

トルコのムスタファ氏によると－　housingは５で
food は ２。

6. センターの場所が不便。

Ⅵ　その他のコメント

－言葉の問題について

英語力が十分でなければ、サイマルの通訳を使った方が良い。それでないと内容が伝わらない。サイマルの通訳は、上出来であった。専門家ではないので質疑応答では、私たちの質問と得られた答えとの間にギャップがあったが、それは、それは、仕方のないことだ。（パキスタン・シャーヒッド氏）

－講師らと直接話す時間がほしい（トルコ・ムスタファ氏）

－アメリカ式の授業の進め方をしてほしい（パキスタン・シャーヒッド氏）

－フォーラム式が良いと思う（シンガポール・トン氏）

研 修 指 導 報 告 書

コース名　　昭和５６年度　一般租税セミナー

報告者　　所属先　　国税庁長官官房企画課

氏　名　　綱嶋　　勤

木村直人

（コース実施上の役割：コースリーダー）

提出月日　　昭和５６年１２月１１日

Ⅰ 総　評

３ケ月半にわたる長期間の研修であったが結果は良好であったと思う。

研修が成功するかどうかは、実施側スタッフの連絡、協調と研修生の質が重要な要素であるが、今回はすべての面で問題がなかったと思う。

ただ中途帰国者（病気のため）が出たことは残念であった。

Ⅱ 事項別評価及び提言

事　　項	研修評価／問題点と改善点
1. コースの目的	
(1) 目的設定の妥当性	妥　当
(2) 目的の具体化／明確化（GIの目的の記載方法）	妥　当
2. 研修プログラム	
(1) カリキュラム（研修内容の大要と重点）の基本設計の妥当性	カリキュラムの基本的流れは、<各国レポートの発表→日本の財政・金融、租税政策論→日本の租税制度税務行政→論文作成→論文発表>でありこれは妥当なものと思われる。 財政・金融などの講義について講義間で内容の調整ができればより効果的であろう。
(2) シラバス（研修内容の範囲、深度）	研修内容が日本の税制・税務行政を中心とし、その背景にある経済・財政租税政策の講義を包含しているのは妥当なものである。 講義内容は、時間が限られているので、講義間での重複を避け、重要事項に重点を置いたものとした方が好しいと思われる。 まとめの時間をグループディスカッションにあてたが、グループディスカッションの時間をもう少し多くし、討論を通してお互いの間の理解を深め又疑問の解決をはかることが望ましい。

事　　項	研修評価／問題点と改善点
(3) 期間、時期の妥当性	期間は研修目的、内容との関係で決まるものであり、現在の内容であれば、この程度の期間が必要であると思われる。
3. 研　修　員 （定員数、対象割当国、資格条件、人選方法、各人のレベルのバラツキ	英語が母国語に近い国の研修員とそうでない国の研修員との間で英語力とくに会話力に差があった。ある程度差があるのはやむをえないが、研修受講者として最低限の会話力は必要である。 今年は中途帰国者が（病気のため）1名でたが、中途帰国というような事態がおこらないよう研修員の健康について事前の注意が必要であろう。 講義・実習・見学時間の時間配分比率は妥当と思われる。
4. 指導方法 (1) 時間配分比率の妥当性 (2) スケジュールの強度 (3) 講師等の指導能力上の問題点	研修員の要望を満足させようとするならば、講義内の講義時間と質疑時間との割合の改革が必要である。（今回はIsession 15～30分程度であった）（研修員は質疑を中心とした授業を期待していた） 昼休み2時間は長いと思われる。30分間短縮することは可能である。 通訳を使う場合には、講義時間が半分以下に落ちることを理解したうえで、準備をしていただくことが望ましいと思う。
5. 教材・研修施設 (1) 教　材 (2) 研修施設	HITCには租税に関する書籍が少いので、とくに論文作成のために附近の大学等の図書室の利用ができれば望ましいと思われる。 都心から遠いことを除けば、HITCの施設は非常に立派なものであり環境も良好であった。
6. 実施体制 (1) 実施機関の協力体制上の問題点 (2) 実施スタッフの問題点	HITCのスタッフ及びコーディネーターの当研修に対する熱意、態度は立派なものであった。 ただ、センターがパーティ会場となるときに、事前の連絡がなく教室の机が運び出されてしまったことがあった。
7. 経　費 （予算上の問題点）	
8. 研修成果	研修員個々で理解度は異なるが、全員が日本の租税についてかなりの程度理解したように思われる。又、講義を離れた点でも、日本についての理解を増し、日本に対し好印象をもったと思われる。
9. そ の 他	

昭和56年度 一般租税セミナー研修日程

月 日	曜	講義 午前（10：00～12：00）	講師等 午後（14：00～16：00）	研修場所等
8. 31	月	HITCオリエンテーション	同左	HITC
9. 1	火	同上	同左	同上
2	水	同上	同左	同上
3	木	同上	同左	同上
4	金	同上	同左	同上
5	土	――	――	――
6	日	――	――	――
7	月	開講式・庁オリエンテーション	国税庁の機構（国税庁総務課長・富尾一郎）	国税庁・第一会議室
8	火	カントリーレポートの発表	同左	(企画課長主催昼食会)
9	水	同上	同左	同上
10	木	同上	同左	同上
11	金	同上	同左	同上
12	土	――	――	――
13	日	――	――	――
14	月	日本の財政Ⅰ（慶応義塾大学教授・古田精司）	同左	新宿ニューシティホテル
15	火	（敬老の日）		
16	水	日本の財政Ⅱ（横浜国立大学教授・宇田川璋仁）	同左	
17	木	特別講話（大蔵省主税局総務課長・内海　孚）	日本の財政金融政策（大蔵省大臣官房参事官・麗室惟男）	新宿ニューシティホテル
18	金	所得税制度と実務（国税庁所得税課課長補佐・向山仁）	同左	セブン・シティ
19	土	――	――	HITC
20	日	――	――	
21	月	租税政策論Ⅰ（大蔵省主税局調査課長・伊藤博行）	租税政策論Ⅱ（大蔵省主税局国際租税課長・河原康之）	セブン・シティ
22	火	間接税制度と実務Ⅰ（国税庁酒税課長・岩瀬多喜造）	まとめ	HITC

月 日	曜	講義 講師等 午前（10：00～12：00）	午後（14：00～16：00）	研修場所等
9. 23	水	（秋分の日）		
24	木	法人税制度と実務（国税庁法人税課課長補佐・福富嘉彦）	同左	HITC
25	金	箱根研修	同左	
26	土	――	――	――
27	日	――	――	――
28	月	源泉徴収制度と実務（国税庁法人税課課長補佐 春日清弘）	同左	HITC
29	火	資産税制度と実務（国税庁資産税課長・平北直己）	査察制度（国税庁査察課長・岡本吉司）	同上
30	水	税務相談（国税庁主任税務相談官・大川 晟）	不服申立制度（国税不服審判所審判官・岸田貞夫）	同上
10. 1	木	人事管理（国税庁人事課長・山本昭市）	ＡＤＰ講義（国税庁事務管理課課長補佐・泉 昭正）	国税庁・第二会議室
2	金	間接税制度と実務Ⅱ（国税庁消費税課長・岩井和雄）	まとめ	HITC
3	土	――	――	――
4	日	――	――	――
5	月	上級租税コース合同討議の傍聴	同左	第四合同庁舎・大蔵省第一特別会議室
6	火	同上	同左	同上
7	水	同上	同左	同上
8	木	同上	特別講話（大蔵省顧問・佐上武弘）	同上
9	金	同上	特別講話（大蔵省大臣官房審議官・行天豊雄）	同上（記念撮影）（長官主催レセプション）
10	土	（体育の日）		
11	日	――	――	――
12	月	職員研修（税務大学校教育第一部長・相原安夫）	鑑定及び醸造試験所の事務（醸造試験所主任研究員・大内弘造）	税務大学校・醸造試験所
13	火	租税条約（ゲリー・トーマス博士）	同左	HITC
14	水	まとめ	租税訴訟（東京地方裁判所判事・園尾隆司）	同上
15	木	租税条約（ゲリー・トーマス博士）	同左	同上
16	金	地方税（自治省税務局府県税課長・金子 清）	租税法（東京大学教授・金子 宏）	新宿ニューシティホテル
17	土			
18	日			

月日	曜	講義 午前（10：00～12：00）	講師等 午後（14：00～16：00）	研修場所等
10／19	月	関係協力団体との懇談会 （全国法人会総連合副会長・山本正平）	同　左（全国間税協力会総連合会会長・古岡　勝）	セブン・シティ
20	火	関税政策と行政（大蔵省関税局輸出課長・小田切貢）	租税法（横浜国立大学助教授・碓井光明）	同　上
21	水	研修旅行		
22	木			
23	金			
24	土	――	――	――
25	日	――	――	――
26	月	東京国税局視察	税務署視察（東京国税局管内）	
27	火	管理事務（国税庁管理課課長補佐・川田　剛）	徴収制度（国税庁徴収課長・山本市蔵）	HITC
28	水	資産課税論（ハーバード大学教授・オールドマン）	同　左	同上
29	木	広　報（国税庁広報課課長補佐・伊戸川啓三）	国税庁の今後の課題（国税庁企画課長・長島和彦）	同上
30	金	ま　と　め	大規模法人の調査（国税庁調査課長・草野伸夫）	同上
31	土	――	――	――
11／1	日	――	――	――
2	月	特別講話（岡山大学講師）グレン・フック）	同　左	HITC
3	火	（文　化　の　日）		
4	水	工場見学（東京国税局管内）	同　左	
5	木	論　文　作　成	同　左	HITC
6	金	同　上	同　左	同上
7	土	――	――	――
8	日	――	――	――
9	月	論　文　作　成	同　左	HITC
10	火	同　上	同　左	同上
11	水	同　上	同　左	同上

月日	曜	講義 午前（10：00～12：00）	講師等 午後（14：00～16：00）	研修場所等
11/12	木	論文作成	同左	HITC
13	金	同上	同左	同上
14	土	――	――	――
15	日	――	――	――
16	月	関西視察（大阪国税局管内）	同左	
17	火	同上	同左	
18	水	同上	同左	
19	木	同上	同左	
20	金	同上	同左	
21	土	――	――	――
22	日	――	――	――
23	月	（勤労感謝の日）		
24	火	工場見学（八王子市内）		
25	水	特別講話（税務大学校長・五味雄治）	発展途上国における税務行政の役割（南カリフォルニア大学税務行政研究所長・ジェームスB．ホム）	HITC
26	木	発展途上国における税務行政の役割（南カリフォルニア大学税務行政研究所長・ジェームスB．ホム）	同左	同上
27	金	発展途上国における税務行政の役割（南カリフォルニア大学税務行政研究所長・ジェームスB．ホム）	同左	HITC
28	土	――	――	――
29	日	――	――	――
30	月	論文発表	同左	HITC
12/1	火	同上	同左	同上

月日	曜	講義	講師等	研修場所等
		午前（10：00～12：00）	午後（14：00～16：00）	
12/2	水	論文発表	同左	HITC
3	木	同上	同左	同上
4	金	総まとめ	同左	同上
5	土	閉講式		国税庁・第一会議室

(注) 1. HITC：Hachioji International Training Center，八王子国際研修センター（国際協力事業団の研修施設）

八王子市暁町 2－31－2 Tel. (0426) 26－5411

2. 新宿ニューシティホテル

新宿区西新宿 4－31－1 Tel. (03) 375－6511

3. セブン・シティ

新宿区西新宿 4－34－1 Tel. (03) 376－5101

4. 企画課長主催昼食会：霞山会館

千代田区霞が関 3－2－4 Tel (03) 581－4671

5. 長官主催レセプション：三田共用会議所

港区三田 2－1－8 Tel. (03) 451－6136